《文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム》

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

平成26年度 事業実施成果報告書

新たな風、新たな波の声を聴く。

平成27（2015）年6月

まえがき

平成２６年度から文部科学省の新規事業『課題解決型高度医療人材養成プログラム』が始まりました。このプログラムは、高度な教育力・技術力を有する大学が核となって教育プログラムを実践・展開することにより、わが国が抱える医療現場の課題に対して科学的根拠に基づいた医療が提供できる高度医療専門人材を育成し、課題を解決し健康立国・健康長寿社会を実現しようとするものです。その中の『医師・歯科医師を対象とする人材養成』の取組の中の『特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成：難治性疾患診断・治療領域』において、北陸医科系４大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）の拠点ネットワークを中核に関連医療機関等が連携して取り組むプログラム『北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン』（認プロ）がスタートしました。

この平成２６年度事業実施成果報告書は、認プロの応募から、採択、事業体制の構築、平成２６年度における活動実施状況（教務活動及び市民公開講座やシンポジウムなどの教務以外の活動）、アドバイザリーボードによる平成２６年度の活動についての外部評価結果に至る記録をまとめたものです。認プロの背景には社会の高齢化に伴い認知症の人が急増していること、認知症の専門医が非常に不足した状況にあることなどがあります。平成２６年１１月、政府は認知症対策を国家戦略として行うことを表明し、平成２７年１月末には新オレンジプランが省庁横断的な認知症施策推進総合戦略として発表されました。高度の認知症診療力を有する、真の認知症プロフェッショナル医を育成する本プランは、まさにタイムリーな取組みといえましょう。認プロが目標とするのは、認知症医療の最先端に位置する知識・診療技能、地域において認知症の人や家族に対して幅広い支援ができる多職種連携力、未来の認知症医療（予防を含む）を創造する研究力等を備えたプロフェッショナルです。認知症を対象とした本事業が全国に先駆けて始まることは意義深く、２１世紀半ばの超高齢化社会の認知症対策で活躍する専門医師育成のモデル事業となることが期待されます。

今後アドバイザリーボード他からいただいたご助言に基づき、事業計画をさらにより良いものにしていきたいと存じます。皆様のご指導・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

２０１５（平成２７）年５月

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
プロジェクトリーダー　山田 正仁
［金沢大学大学院医薬保健学総合研究科　脳老化・神経病態学（神経内科学）教授］

目　　次

まえがき
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
プロジェクトリーダー　山田　正仁

Ⅰ．事業説明・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
１．文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムへの応募・・・・・・・・・　１
２．認プロの採択から交付決定まで・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２
３．認プロの事業体制の構築・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

Ⅱ．平成２６年度事業実施報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
１．平成２６年度における認プロの活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
２．平成２７年度以降の事業計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９

Ⅲ．アドバイザリーボードによる外部評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
１．メンバー紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
２．議事次第・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１１
３．議事概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１２
４．アドバイザリーボード評価表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１５

Ⅳ．参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１
資料１　「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の選定結果・・・・・・・　２２

資料２　「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択・新聞記事・・・・・　３０

資料３　「課題解決型高度医療人材養成プログラム」審査結果・・・・・・・・　３３

資料４　平成２６年度大学改革推進等補助金「課題解決型高度医療人材・・・・　３７
養成プログラム」の交付内定通知
資料５　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業共同実施協定書・・・　３８

資料６　「大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業
（課題解決型高度医療人材養成プログラム）」交付決定通知書　・・・・　４０

資料７　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営組織に関する申合せ・　４３

資料８　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン
事業推進委員会委員名簿・・　４６

資料９　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン　教務委員会委員名簿・・　４７

資料１０　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン　運営協議会委員名簿・・　４８

資料１１　第１回教務委員会議事次第及び議事概要・・・・・・・・・・・・・・・・　４９

資料１２　平成２７年度教育コース履修者募集要項・・・・・・・・・・・・・・・・　５３

資料１３　認プロホームページ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７０

資料１４　キックオフ市民公開講座　ポスター・チラシ・プログラム・・・・・・　７１

資料１５　キックオフ市民公開講座　新聞記事・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７５

資料１６　第１回運営協議会議事概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７８

資料１７　運営協議会・アドバイザリボード説明用スライド・・・・・・・・・・・　８２

資料１８　キックオフシンポジウム　プログラム・ポスター・抄録抜粋・・・・・　９１

資料１９　キックオフシンポジウム　新聞記事・・・・・・・・・・・・・・・・・・　９９

資料２０　「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表・・・・　１００

Ⅰ. 事　業　説　明

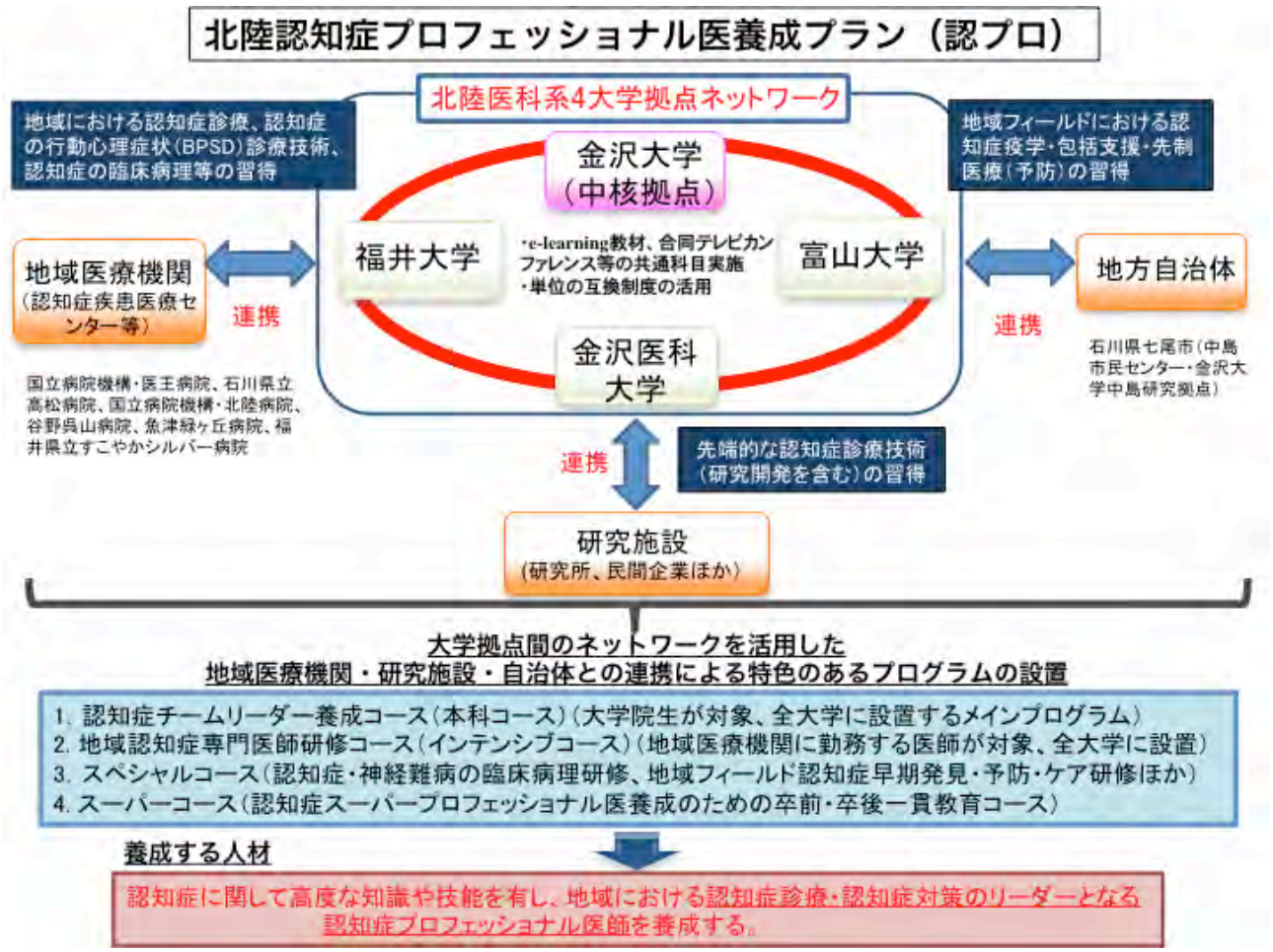
Ⅰ．事業説明

１．文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムへの応募

平成２６年５月２日に文部科学省の新規事業「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の公募があった。このプログラムは、高度な教育力・技術力を有する大学が核となって教育プログラムを実践・展開することにより、わが国が抱える医療現場の課題に対して科学的根拠に基づいた医療が提供できる高度医療専門人材を育成し、課題を解決し健康立国・健康長寿社会を実現しようとするものである。

私達は、わが国の高齢化に伴う認知症の人の急増、認知症医療に携わる高度専門人材の不足の問題を解決し、最先端の知識・診療技能、地域において認知症の人や家族に対して幅広い支援ができる多職種連携力、未来の認知症医療・予防を創造する研究力を備えた真の認知症プロフェッショナル医師を養成するために、「医師・歯科医師を対象とする人材養成」の取組の中の「特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成：難治性疾患診断・治療領域」において、北陸医科系４大学の拠点ネットワークを構築して認知症に焦点を当てたプログラム「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）」を作成し**（図 1. 認プロ概要図）**、平成２６年６月２日に申請書を提出した。

図１．認プロ概要図



２．認プロの採択から交付決定まで

平成２６年７月２８日に文部科学省から「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の選定結果が発表され、認プロが選定された。文部科学省の報道発表は、**【資料１】２２頁**のとおり。新聞記事は、**【資料２】３０頁**のとおり。

同年８月１４日付けで文部科学省高等教育局長から、**【資料３】３３頁**のとおり審査結果についての通知を受けた。

同年９月９日に平成２６年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書を文部科学省へ提出し、翌９月１０日に**【資料４】３７頁のとおり**交付内定通知を受け、同日に金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学の４大学で、**【資料５】３８頁**のとおり北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業共同実施協定を締結した。

平成２６年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）交付申請書を提出し、平成２６年１０月１５日付けで**【資料６】４１頁**のとおり文部科学大臣から交付決定通知を受けた。

３．認プロの事業体制の構築

平成２６年１０月３０日に事業推進準備委員会を開催し、事業体制の構築を行った。そこでの申合せは、**【資料７】４３頁**のとおりであり、この申合せに基づいて運営組織として事業推進委員会、教務委員会、運営協議会及びアドバイザリーボードを発足した。運営組織は（**図２．認プロ運営組織図**）のとおりである。

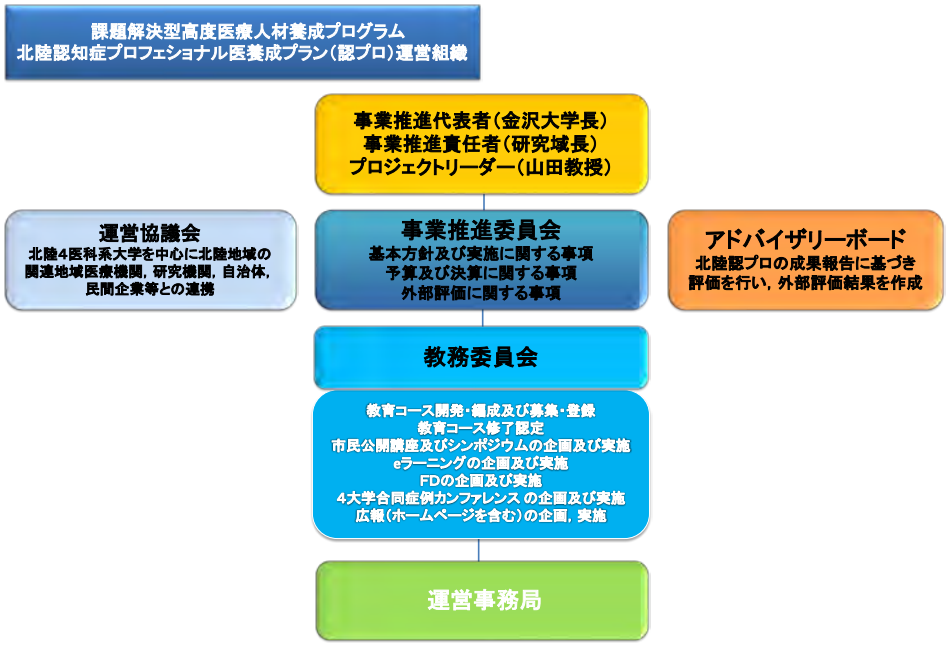
事業推進委員会は認プロ事業の運営のための組織であり、**【資料８】４６頁**のとおり認プロを構成する大学の主要メンバーである委員１０名よりなる。

教務委員会は教育コース等を実施するための組織であり、**【資料９】４７頁**のとおり構成大学や連携医療機関の委員３１名よりなる。

運営協議会は認プロ事業の実施にあたり関係団体からの意見を求めるためのものであり、**【資料１０】４８頁**のとおり北陸各県の行政、医師会、関連地域医療機関などからの委員２４名よりなる。

アドバイザリーボードは認プロの外部評価のための組織であり、認知症の専門家の立場、地域医療連携の立場、国民一般の立場等を代表する外部委員４名よりなる（**１１頁参照**）。

図２．認プロ運営組織図



Ⅱ．平成２６年度事業実施報告

Ⅱ．平成２６年度事業実施報告

１．平成２６年度における認プロの活動状況

１）教務関係

a. 教材の作成等

平成２６年１２月２６日に第１回教務委員会を開催し、**【資料１１】４９頁**に示す議題について審議し、平成２７年度からのコース設置に向け、教育コース及びプロフェッショナル科目（e-learning）を決定した（**表１参照**）。教務委員会議事概要は、**【資料１１】５０頁**のとおり。

認プロ教育コースとして、①本科コース、②インテンシブコース、③スペシャルコース、④スーパーコースの４コースを設定した（①、②は全大学に、③、④は金沢大学のみに設置）。

① 本科コースが、メインプログラムであり、高度の知識・技能を有する認知症チーム医療リーダー医師の養成をめざすもので、大学院生を対象とする。

② インテンシブコースは、地域における認知症診療の中心となって活躍する専門医師の研修が目的で、地域医療機関で認知症診療に携わる医師等が対象である。

③ スペシャル研修コースは、認知症・神経難病の臨床病理や、地域フィールドにおける認知症早期発見・予防・ケアなど、特定領域を集中して研修するためのコースである。

④ スーパーコースは卒前・卒後一貫教育により高度な研究力を有する認知症スーパープロフェッショナル医の養成を行うもので、卒前の学生を対象とする。

さらに、上記のコースの履修者が受講する認プロ科目として、講義(e-learning)９科目１０単位 【①認知症基礎、②認知症症候学、③認知症検査・診断学、④認知症治療・予防学、⑤認知症ケア・リハビリ・地域支援・倫理、⑥認知症各論Ⅰ（神経変性疾患）、⑦認知症各論Ⅱ（血管障害、外傷、代謝性疾患、精神疾患等）、⑧認知症特論、⑨研究倫理】、演習４科目４単位 【認知症診断・治療学演習 I～IV［デメンシアカンファレンス（テレビ会議システムによる症例検討会）］】、実習２科目６単位（①地域認知症疫学・予防・ケア実習、②認知症・神経難病の臨床病理実習）を設置する。

平成２７年度からの各コースの設置に向け、平成２６年度は６コマの e-learning 教材作成と収録を行った。

表１．認プロの教育コースと認知症プロフェッショナル科目

（１）教育コース
〈本科コース〉認知症チーム医療リーダー養成コース（講義、演習、実習） ８単位以上の履修が必要 〈インテンシブコース〉地域認知症専門医研修コース（講義、演習、実習） ４単位以上の履修が必要 〈スペシャルコース〉認知症・神経難病の臨床病理研修コース 〈スペシャルコース〉地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース 〈スーパーコース〉認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育コース
（２）認知症プロフェッショナル科目
【講義】９科目１０単位 （１科目は、e-learning 教材（５～６コマ）＋（認知症関連）学会 or セミナー参加 or デメンシアカンファレンス受講（１～２コマ）＋確認テスト（１コマ）からなる）

１．認知症基礎（１単位）（概要と疫学、病理、生化学（神経伝達物質、蛋白化学）、分子遺伝学等）（８コマ） ２．認知症症候学（１単位）（中核症状、BPSD、神経心理）（８コマ） ３．認知症検査・診断学（１単位）（画像、バイオマーカー等）（８コマ） ４．認知症治療・予防学（１単位）（薬物治療総論、BPSD の治療、予防等）（８コマ） ５．認知症ケア・リハビリ・地域支援・倫理（１単位）（８コマ） ６．認知症各論Ⅰ（１単位）（AD や DLB といった神経変性疾患）（８コマ） ７．認知症各論Ⅱ（１単位）（血管障害、外傷、代謝性疾患、精神疾患等）（８コマ） ８．認知症特論（２単位）（各大学で行われている認知症関連授業科目の読み替え）（１５コマ） ９．研究倫理（CITI JAPAN）（１単位）（研究一般に関する倫理。認知症診療の倫理は「認知症ケア・リハビリ・地域支援・倫理的配慮」に含む）
【演習】４科目４単位
１．認知症診断・治療学演習Ⅰ～Ⅳ（各１単位）（デメンシアカンファレンス(症例検討会)受講１２回／年を想定）（８コマ×４）
【実習】２科目６単位　（１科目は、３単位１３５時間(１単位４５時間)からなる） １．地域認知症疫学・予防・ケア実習（３単位） ２．認知症・神経難病の臨床病理実習（３単位）

プロフェッショナル科目内訳

【講義】

『１．認知症基礎』（１単位）

【科目担当教員：金沢大学神経内科　山田正仁】

回	授業担当者名	授業担当者所属	テーマ
第１回	山田正仁	金沢大学神経内科	認知症の概要と疫学
第２回	坂井健二	金沢大学神経内科	認知症の病理学
第３回	浜口　毅	金沢大学神経内科	認知症の分子遺伝学
第４回	岩佐和夫	金沢大学神経内科	認知症の神経化学（神経伝達物質）・神経免疫学
第５回	小野賢二郎	金沢大学神経内科	認知症の蛋白化学*
第６回	内木宏延	福井大学病理学	アミロイドーシスの分子機構*
第７回	単位認定教員		（認知症関連）学会 or セミナー参加（1 回） デメンシアカンファレンス受講
第８回	単位認定教員		確認テスト（必須）

『２．認知症症候学』（１単位）

【科目担当教員：金沢医大精神神経科　川崎康弘】

回	授業担当者名	授業担当者所属	テーマ
第１回	上原　隆	金沢医科大学精神神経科	認知症の中核症状と BPSD
第２回	川﨑康弘	金沢医科大学精神神経科	老年期の精神障害と認知症
第３回	北村　立	石川県立高松病院	老年期の気分障害と認知症
第４回	田中悠二	福井大学精神医学	老年期の不安障害、睡眠障害、せん妄と認知症
第５回	池田篤平	金沢大学神経内科	軽度認知障害
第６回	大黒正志	金沢医科大学高齢医学科	認知症高齢者に合併しやすい身体症状とその対応
第７回	単位認定教員		（認知症関連）学会 or セミナー参加（1 回） デメンシアカンファレンス受講
第８回	単位認定教員		確認テスト（必須）

『３．認知症検査・診断学』（１単位）
【科目担当教員：福井大学精神医学　和田有司】

回	授業担当者名	授業担当者所属	テーマ
第１回	東間正人	福井大学精神医学	認知症診療に必要な神経心理検査
第２回	吉田光宏	国立病院機構北陸病院	認知症の画像検査１（CT、MRI、MIBG、DAT imaging）
第３回	松成一朗	先端医学薬学研究センター	認知症の画像検査2(脳血流 SPECT, FDG-PET, アミロイド PET)
第４回	篠原もえ子	金沢大学神経内科	認知症の血液・脳脊髄液検査
第５回	東間正人	福井大学精神医学	認知症の神経生理検査－脳波－
第６回	小野賢二郎	金沢大学神経内科	認知症診断のすすめ方
第７回	単位認定教員		（認知症関連）学会 or セミナー参加（1 回） デメンシアカンファレンス受講
第８回	単位認定教員		確認テスト（必須）

『４．認知症治療・予防学』（１単位）
【科目担当教員：金沢医大高齢医学科　森本茂人】

回	授業担当者名	授業担当者所属	テーマ
第１回	森本茂人	金沢医科大学高齢医学科	認知症の治療総論（薬物、ケア、リハビリ、終末期医療をふくむ）
第２回	森本茂人	金沢医科大学高齢医学科	高齢者の薬物動態

第 3 回	濱野忠則	福井大学神経内科	抗認知症薬
第 4 回	橋本隆紀	金沢大学神経科精神科	BPSD の治療
第 5 回	篠原もえ子	金沢大学神経内科	生活習慣と認知症予防
第 6 回	単位認定教員		（認知症関連）学会 or セミナー参加（1 回） デメンシアカンファレンス受講
第 7 回	単位認定教員		
第 8 回	単位認定教員		確認テスト（必須）

『５．認知症ケア・リハビリ・地域支援・倫理』（１単位）
【科目担当教員：富山大学神経精神科　鈴木道雄】

回	授業担当者名	授業担当者所属	テーマ
第 1 回	木戸幹雄	富山大学精神科	認知症のケアとリハビリの基本・原則
第 2 回	島崎正夫	谷野呉山病院	認知症ケアの実践
第 3 回	横川正美	金沢大学保健学系理学療法学	認知症リハビリの実践
第 4 回	北村　立	石川県立高松病院	社会環境・資源 1（認知症に関わる制度・政策）
第 5 回	北村　立	石川県立高松病院	社会環境・資源 2（生活支援と地域連携）
第 6 回	北村　立	石川県立高松病院	認知症の人への配慮、法・倫理
第 7 回	単位認定教員		（認知症関連）学会 or セミナー参加（1 回） デメンシアカンファレンス受講
第 8 回	単位認定教員		確認テスト

『６．認知症各論Ⅰ』（１単位）
【科目担当教員：金沢大学神経内科　山田正仁】

回	授業担当者名	授業担当者所属	テーマ
第 1 回	山田正仁	金沢大学神経内科	アルツハイマー病
第 2 回	吉田光宏	国立病院機構北陸病院	レビー小体型認知症
第 3 回	鈴木道雄	富山大学精神科	前頭側頭葉変性症
第 4 回	坂井健二	金沢大学神経内科	進行性核上性麻痺／大脳皮質基底核変性症
第 5 回	山田正仁	金沢大学神経内科	嗜銀顆粒性認知症／神経線維変化型老年期認知症

第6回	単位認定教員		（認知症関連）学会 or セミナー参加（1回） デメンシアカンファレンス受講
第7回	単位認定教員		
第8回	単位認定教員		確認テスト（必須）

『７．認知症各論Ⅱ』（１単位）
【科目担当教員：富山大学神経内科　田中耕太郎】

回	授業担当者名	授業担当者所属	テーマ
第1回	高嶋修太郎	富山大学神経内科	血管性認知症
第2回	富岳　亮	金沢医科大学神経内科	正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、頭部外傷
第3回	林　浩嗣	福井大学神経内科	代謝性疾患、炎症性疾患、その他
第4回	浜口　毅	金沢大学神経内科	プリオン病
第5回	高橋　努	富山大学精神科	認知症と鑑別すべき精神疾患
第6回	濱野忠則	福井大学神経内科	若年性認知症
第7回	単位認定教員		（認知症関連）学会 or セミナー参加（1回） デメンシアカンファレンス受講
第8回	単位認定教員		確認テスト（必須）

『８．認知症特論』（各大学で行われている認知症関連授業科目の読み替え）（２単位）

『９．研究倫理』(CITI JAPAN)(１単位)
（研究一般に関する倫理。認知症診療の倫理は「認知症ケア・リハビリ・地域支援・倫理的配慮」に含む）
「CITI Japan Project」は、研究者に求められる行動規範に関して、日本独自の教育を確立するプログラムです。

【演習】
『認知症診断・治療学演習Ⅰ～Ⅵ』（各１単位）（デメンシアカンファレンス(症例検討会)８回出席）

【実習】
『地域認知症疫学・予防・ケア実習』（3単位）
『認知症・神経難病の臨床病理実習』（3単位）

b. 認プロ教育コース履修者の募集

認プロ教育履修者募集のため、**【資料１２】５３頁**のとおり募集要項を作成し、平成２７年３月初旬より募集を開始した。

３月下旬に第１期志願者の書類選考を行い、本科コース／金沢大学４人、福井大学１人・インテンシブコース／金沢大学１人、富山大学１人の受け入れを決定した。

なお、金沢医科大学は、大学院生の入学後に募集を行う。

平成２７年４月以降も教育コースの周知を継続し、各コースの募集人員充足に努める。

２）教務関係以外の活動

a. ホームページの開設　http://www.ninpro.jp

認プロの活動や成果を広く発信するため、**【資料１３】７０頁**のとおりホームページを開設した。

b. キックオフ市民公開講座の開催

認知症についての市民の理解を深め、認プロの取り組みを紹介する目的で、平成２７年２月２２日に金沢市で、**【資料１４】７１頁**のとおりキックオフ市民公開講座「認知症を知る・治す・防ぐ」を開催した。歌手・橋幸夫氏の特別講演、認プロ関係者による当プログラムの紹介と認知症に関するパネルディスカッションを行った。

当日は、約５００名の参加者があり、会場はほぼ満席となった。認知症を取り巻く諸課題や全国に先駆けてプロの専門医を育成する北陸発の取り組みなどに理解を深める、大変有意義な公開講座となった。

新聞記事は、**【資料１５】７５頁**のとおり。

c. 運営協議会の開催

平成２７年３月２２日に**【資料１６】７８頁**に示すとおり、平成２６年度運営協議会を開催し、平成２６年度事業内容、平成２７年度事業計画等を説明し、北陸各県の行政、医師会、関連地域医療機関関係団体等の各委員から有益な助言を得た。

d. アドバイザリーボードの開催

平成２７年３月２２日に平成２６年度アドバイザリーボードを開催し、**【資料１７】８２頁**の資料に基づき、事業の内容や今後の計画について認知症の専門家の立場、かかりつけ医の立場、国民一般の立場等を代表する外部委員４名から有益な助言を得た。

なお、アドバイザリーボードの委員メンバー、議事概要、評価表等を**１１頁以降**に示す。

e. キックオフシンポジウムの開催

認知症のプロフェッショナル医の養成のあり方と認知症診療・研究の最近の進歩を討議することを目的とし、平成２７年３月２２日に金沢市で、認知症医療に携わる医師や認知症専門医を志す医師等を主な対象に、わが国における認知症専門医養成や認知症研究の第一人者の方々を招き、**【資料１８】９１頁**に示すプログラムのとおりキックオフシンポジウムを開催した。

参加者は約１３０名であった。

新聞記事は、**【資料１９】９９頁**のとおり。

２．平成２７年度以降の事業計画

平成２７年度以降の事業計画について、概要を紹介する。平成２７年度の計画は以下のとおりである。教育コース履修者のうち、本科コースは平成２７年４月と１０月に、他のコースは随時受け入れを行う。４月から e-learning 教材の提供を開始、テレビ会議システムを使用し、連携大学及び関連地域医療機関とデメンシアカンファレンスを毎月開催する。ＦＤ講演会を各大学が年１回以上開催する。５月に当プログラムと同じく文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラムの難治性疾患診断・治療領域に選定された信州大学の「難病克服！次世代スーパードクターの育成」と合同フォーラムを開催する。また、６月に事業推進委員会・意見交換会、９月に教務委員会、１１月に市民公開講座（福井大学担当）、キャリア支援セミナー、１２月に第２０回日本神経精神医学会とのジョイント企画のシンポジウムを開催する。平成２８年２月に平成２８年度教育コースの履修者募集（説明会の開催）、志願者書類審査及び選考試験の実施を行う予定である。

【資料２０】１００頁のとおり、この計画を含む工程表、及び平成２７年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書を作成し、平成２７年２月２０日に文部科学省へ提出した。

Ⅲ．アドバイザリーボードによる
外　　部　　評　　価

Ⅲ. アドバイザリーボードよる外部評価

１．メンバー紹介

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」
北陸認知症プロフェッショネル医養成プラン　アドバイザリーボード委員

氏　　名	所属(研究科・専攻等)・職名	事 業 に お け る 役 割
中島　健二	鳥取大学脳神経医科学講座脳神経内科学分野 教授	認知症の専門家（神経内科領域）からの委員
天野　直二	信州大学精神医学教室 教授	認知症の専門家（精神科領域）からの委員
沖野　惣一	おきの内科医院 院長 かほく認知症を地域で考える会 代表	かかりつけ医の立場からの委員
矢島　ゆき子	ＮＨＫエデュケーショナル科学健康部　シニアプロデューサー	国民一般の立場からの委員

２．　議事次第

①　開会の挨拶

山田　正仁
(金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科学）教授)
(認プロ プロジェクトリーダー)

②　挨拶

井関 尚一
(金沢大学医薬保健学域長)
(認プロ　事業推進責任者)

③　アドバイザリーボード委員の紹介

④　委員長の選出

⑤　平成２６年度事業内容と平成２７年度事業計画について

平成２６年度事業内容
平成２７年度事業計画

⑥　疑応答、意見交換、評価

⑦　閉会の挨拶

山田 正仁

３．議事概要

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
第１回アドバイザリーボード議事概要

日時　平成２７年３月２２日（日）12:00～12:50
場所　ホテル日航金沢　５階　松の間

アドバイザリーボード委員
（出席）：天野 直二（信州大学精神医学教室 教授）
中島 健二（鳥取大学脳神経医科学講座脳神経内科学分野 教授）
沖野 惣一（おきの内科医院院長、かほく認知症を地域で考える会代表）
（欠席）：矢島 ゆき子（ＮＨＫエデュケーショナル科学健康部
シニアプロデューサー）
オブザーバー：
西尾 和幸（文部科学省高等教育局医学教育課
大学病院支援室　病院第二係長）
認プロ関係者：
事業推進責任者:井関 尚一（金沢大学医薬保健学域長）
プロジェクトリーダー:山田 正仁（金沢大学大学院脳老化
・神経病態学（神経内科学）　教授）
事　務　局：小野 賢二郎（金沢大学附属病院神経内科 講師）
堤口 英隆（金沢大学医薬保健系事務部 部長）
北村 浩一（金沢大学医薬保健系事務部 学生課長）
穴倉 千恵（医薬保健系事務部学生課 専門職員）

① 開会の挨拶
山田 正仁プロジェクトリーダーから開会の挨拶があった。

② 挨拶
井関 尚一事業推進責任者から挨拶があった。

③ アドバイザリーボードの委員及びオブザーバーの紹介
山田 正仁プロジェクトリーダーから、アドバイザリーボード各委員並びにオブザーバーとして出席した文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室 西尾 和幸病院第二係長の紹介があった。

④ 委員長の選出
委員長として天野 直二委員が選出された。

⑤ 平成２６年度事業内容説明及び平成２７年度事業実施計画について
山田 正仁プロジェクトリーダーから、スライド及び配布資料を用いて平成２６年度事業内容と平成２７年度事業実施計画について説明があった。

⑥ 質疑応答・意見交換・評価

配付資料（文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム 北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ） アドバイザリーボード評価報告）を用いて意見交換が行われた。

【中島 健二委員】

非常にうまく構成されている。初年度は基礎の体制作りだったと思うので、今後、どのように機能していくかは来年度以降の状態をみていきたい。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

来年度の募集要項を作成し、募集中である。本科コースは若い先生方を中心に集めていきたい。

【沖野 惣一委員】

先日の２月の市民公開講座に出席させていただいたが、非常に盛況で、市民にも大変分かりやすい講演であったように思う。本科コースはいろいろな人でも受けられるのか。

【山田 正仁プロジェクトリーダー】

本科コースには、大学院の研究も含まれているので、履修は大学所属の方々に限られる。

【天野 直二委員長】

事前に送ってもらった資料は大変興味深く、評価も「良い」と書かせていただいた。地方で北陸４大学が中心になって、それぞれの大学の特色を出してこのような認知症のプログラムが行われるのは興味深い。診療や治療だけでなく、地域との関係、現場密着も含んでおり、範囲が幅広いことも良いように思う。また、研究者のリサーチマインドも大事にして、病理など研究の要素も含んでいて良い。ここまでは、関連学会が十分にできないことなので、地方の大学が行えることは良いことだと思う。質問としては、どのように学生さんを集めていくのか。

【山田 正仁プロジェクトリーダー】

金沢大学のスーパーコース（卒前卒後一貫コース）では，神経内科で研究している学生（MRT プログラム）を中心に幅広く集めていきたい。

【天野 直二委員長】

今後検討していく課題としては、認知症学会などの学会専門医の取得など、受講することのメリットを模索していくといいのではないか。また、診療の現場だけでなく、地域の保健所や自治体など、それぞれの現場での経験をどのように生かしていくかを考えていけばいいのではないか。

【山田 正仁プロジェクトリーダー】

今後、学会や地域の保健所や自治体などとの連携を拡大する方向で、プログラムを発展させていきたい。

【西尾 和幸オブザーバー】

本事業においては、大学内での取組みだけでなく、地域の行政、自治体の方々との連携を大事にして、今後、全国に向けてモデルになるようにしていってほしい。ホームページなどでシラバスなどの教育の詳細内容の公表や専門医等のキャリアパス支援を事業推進委員会などで検討していただきたい。また、医師以外のキャリアパスも検討いただきたい。１点確認であるが、先ほどの

スライドで紹介された授業科目は、４大学共通の科目なのか。また、デメンシアカンファレンスは各大学で受けられるのか。

【山田 正仁プロジェクトリーダー】

認プロ科目は、北陸４大学共通で、認プロホームページにシラバスなどの内容も掲載していく。講義は e-learning で行う。また、４大学および参加施設で同時にテレビ会議システムを用いてデメンシアカンファレンスを行う。キャリアパス支援セミナーを予定している。

【山田 正仁プロジェクトリーダー】

現在は事業の領域が指定されていたため、医師のみを対象としているが、ほかの職種にも対象を広げていっていいのか。

【西尾 和幸オブザーバー】

それで結構です。

【山田 正仁プロジェクトリーダー】

先日、西尾様より提案のあった同じ領域で選定された信州大学のプログラムとの合同フォーラムについて、信州大学と協議中である。平成２７年度の事業計画の予定は、双方とも既に決定しているため、平成２７年度に計画し、平成２８年度に実施を考えているが、それでよいか。

【西尾 和幸オブザーバー】

それで結構です。

⑦ 閉会の挨拶

山田 正仁プロジェクトリーダーから閉会の挨拶があった。

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン(認プロ)
アドバイザリーボード評価報告

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザリーボード評価表

評価日　２０１５ 年 3月１８日

所　属　　信州大学医学部精神医学教室

氏　名　　天野　直二

総合評価
■　良い □　一部問題や不十分な点がある □　全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある □　その他 ［　　］
評価できる点
１）４大学が連携して認知症専門医を養成するプログラムを進めている点。しかも、同一の目的の中でそれぞれの大学が工夫して独自のプログラムを有している。 ２）認知症に対応するために必要な研修すべき項目が幅広く網羅され、かつ整理されている点。診断や治療だけでなく地域における連携、基礎的な神経病理学的部門等と守備範囲が広い。 ３）認知症に対して日本老年精神医学会、日本認知症学会等がうまくできない大学内における実地的な教育、研修を先端的に進めている点。本来専門医養成が重要な任務である学会が十分に為し得なかった研修のプログラムを遂行している。 ４）卒前教育を視点に入れた点。医学部教育に認知症学を率先して取り入れている。
改善を期待する点
１）改善すべきというよりはやや気がかりな点としては、先述した学会（日本老年精神医学会、日本認知症学会等）との関連性を何らかの形で持たせることは可能かどうか。難しいにしても、プログラムに参加する医師は、学会専門医の資格を早々にとってしまうような動きがあってもいいのかもしれない。なぜなら、実際、医療の場面では学会専門医の役割が大きく期待されており、社会制度的にもコンファームされている。而して、学会専門医との関係性を模索する必要がある。

２）専門医は現在の認知症対策の先頭にたつ役割を期待されている。すると他職種との連携が必須となり、医学、医療のみの展開だけではないことが強調される。特に地域包括ケアシステムでの医療の役割を十分に学習しなければいけないと考える。連携の部分がやや弱いかもしれない。
３）２）に関連して、認知症施策につながった専門医養成であることが望まれる。今や国挙げての施策になりつつあるので、オレンジプラン、新オレンジプラン、認知症初期集中支援チームなどの重点的な課題と濃密にコミットしていく必要がある。
４）プログラムの中で現場での体験がどの程度みられるのか、今一つみえてこない点がやや気がかりである。大学病院の外来・病棟、診療所、保健所、地域包括支援センター、認知症疾患医療センター等の役割分担を明記するようになってきているが、専門医は全体を熟知しておく必要がある。現場研修をどのように組み立てるか、あるいはそれを補充するような教育・研修はないか、検討してもいいのではないかと思う。

＊記入欄が足りない場合は、本様式を引き伸ばしてください。

＊3 月 18 日（水）までに、メールにてご返信くださいますようお願いいたします。

〔返信先〕認プロ運営事務局　e-mail: ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザリーボード評価表

評価日　　平成 27 年　3 月　16 日

所属　鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野

氏名　中島　健二

総合評価
☑ 良い ☐ 一部問題や不十分な点がある ☐ 全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある ☐ その他 ［　　］
評価できる点
金沢大学を中心とした四大学からなる拠点ネットワークと関連施設との連携・協力体制により、神経内科・精神科・老年医学の連携・協力による臨床教育、地域フィールド・疫学研究、地域連携、チーム医療、介護―医療連携、神経画像検査、神経病理など、認知症に関連する広範囲な領域をカバーする教育体制が構築されている。また、市民公開講座など、一般への啓発活動も実施されている。 平成 26 年度は本事業の開始初年度であり、今後、と推定されている認知症の診療に取り組む認知症専門医など、各教育コースによる人材育成の成果が挙げられていくことが期待される。
改善を期待する点

＊記入欄が足りない場合は、本様式を引き伸ばしてください。

＊3 月 18 日（水）までに、メールにてご返信くださいますようお願いいたします。

〔返信先〕認プロ運営事務局　e-mail: ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザリーボード評価表

評価日　2015 年　3 月　18 日

ご所属　おきの内科医院

氏　名　沖野　惣一

総合評価
■　良い □　一部問題や不十分な点がある □　全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある □　その他 ［　］
評価できる点
・ キックオフ市民公開講座において，多くの市民を対象とした認知症，および認プロに関しての啓蒙を行うことができた．内容も一般市民にとって非常にわかりやすいものであった． ・ 事業概要を記載したわかりやすいホームページも立ち上がっている． ・ 北陸の医科系 4 大学が同一の課題に対して個々の特色を活かしながら取り組む体制となっており，従来にない取り組みである．
改善を期待する点
・ 事務連絡や各種の案内，ポスター配布等が遅く，日程に余裕が少ない．今後の連絡，案内体制をあらかじめ期限を決めて施行してほしい． ・ e-lerning についての準備，進捗状況がわからず，計画どおりに進んでいるかどうか明らかにしていただきたい．

＊記入欄が足りない場合は、本様式を引き伸ばしてください。

＊3 月 18 日（水）までに、メールにてご返信くださいますようお願いいたします。

〔返信先〕認プロ運営事務局　e-mail: ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
アドバイザリーボード評価表

評価日　2015 年 3 月 18 日

ご所属　NHK エデュケーショナル

氏　名　矢島　ゆき子

総合評価
■　良い □　一部問題や不十分な点がある □　全体的に不十分であるか、一部に重大な問題がある □　その他 ［　］
評価できる点
世界で初めて超高齢化社会を迎える日本では、認知症はますます大切な問題になる。特に認知症の患者さん・その家族にとっては、適切に接し、助け、治療してくれる医師に出会えるかどうかで、その後の生活・人生もかなり変わるのではないか。その意味でも、今回の人材養成プログラムは大切だと思う。 また、資料を拝見し、科学的根拠に基づいた医療を提供するために様々なレベルでの認知症を学んでもらうカリキュラムなどが予定されていることがわかり、興味がもてた。
改善を期待する点
今年度は、おそらく将来にわたり長く続ける活動の準備期間であるために、具体化されていないことが多々あったと思う。特に e-ラーニングなどについては全国で普及・共有化できる教材としての可能性もあり、来年度以降、さらに具体化されることを期待する。 また、核家族が増えている現在、認知症の高齢者と同居した経験のある若い世代は減ってきているのではないか。認知症の場合、おそらく他の病気以上に患者さん自身のそれまでの生き方が影響する部分がある気がする。是非、プログラム参加者に、認知症を学ぶと同時に、医療機関以外での多くの認知症の高齢者・家族と接する様々な機会を多く作っていただければと思う。

＊記入欄が足りない場合は、本様式を引き伸ばしてください。

＊3 月 18 日（水）までに、メールにてご返信くださいますようお願いいたします。

〔返信先〕認プロ運営事務局　e-mail: ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

Ⅳ. 参　考　資　料

Ⅳ. 参考資料

資料１　「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の選定結果（平成２６年７月２８日）

資料２　「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択・新聞記事
（平成２６年７月３０日・３１日）

資料３　「課題解決型高度医療人材養成プログラム」審査結果（平成２６年８月１４日）

資料４　平成２６年度大学改革推進等補助金「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の交付内定通知（平成２６年９月１０日）

資料５　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業共同実施協定書
（平成２６年９月１０日）

資料６　「大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業（課題解決型高度医療人材養成プログラム）」交付決定通知書（平成２６年１０月１５日）

資料７　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営組織に関する申合せ
（平成２６年１０月３０日）

資料８　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン　事業推進委員会委員名簿
（平成２６年１０月３０日の申し合わせによる）

資料９　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン　教務委員会委員名簿
（平成２６年１０月３０日の申し合わせによる）

資料１０　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン　運営協議会委員名簿
（平成２６年１０月３０日の申し合わせによる）

資料１１　第１回教務委員会議事次第及び議事概要（平成２６年１２月２６日）

資料１２　平成２７年度教育コース履修者募集要項　（平成２７年３月初旬）

資料１３　認プロホームページ（平成２６年１２月）

資料１４　キックオフ市民公開講座　ポスター・チラシ・プログラム（平成２７年２月２２日）

資料１５　キックオフ市民公開講座　新聞記事
（平成２７年１月２９日、２月２３日、３月２２日）

資料１６　第１回運営協議会議議事概要（平成２７年３月２２日）

資料１７　運営協議会・アドバイザリボード説明用スライド（平成２７年３月２２日）

資料１８　キックオフシンポジウム　プログラム・ポスター・抄録抜粋（平成２７年３月２２日）

資料１９　キックオフシンポジウム　新聞記事（平成２７年３月２３日）

資料２０　「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表（平成２７年２月２０日）

【資料１】

報道発表

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

平成２６年７月２８日

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の選定結果

本年度から開始する「課題解決型高度医療人材養成プログラム」について、別紙のとおり選定事業を２６件決定しました。

１．事業の背景・目的

本事業（平成２６年度予算額：１０億円）では、我が国が抱える医療現場の諸課題等に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成するため、大学自らが体系立てられた特色ある教育プログラム・コースを構築し、全国に普及させ得るべく、これからの時代に応じた医療人材の養成に取り組む事業を選定し支援します。

２．事業概要

○選定件数：【取組１】医師・歯科医師を対象とした人材養成：１４件
【取組２】看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成：１２件

○補助金交付額：【取組１】１件につき５，０００万円程度／年
【取組２】１件につき２，５００万円程度／年

○補助期間：平成２６年度から最大５年以内（予定）

３．選定結果（詳細は別紙のとおり）

【取組１】医師・歯科医師を対象とした人材養成　１４件（申請件数　９９件）
【取組２】看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成
１２件（申請件数１３６件）

４．選定方法

専門家・有識者により構成された「課題解決型高度医療人材養成推進委員会」で審査を行い決定しました。

【参考】本事業に関する情報を文部科学省ホームページに掲載しています。

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryou/1346835.htm

（※８月中旬頃に「選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント」及び選定大学の申請書を文部科学省ホームページに掲載予定。）

＜担当＞
文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室
室 長 補 佐 ：尾　田　史　郎
病院第二係長：西　尾　和　幸
電　話：03－5253－4111　内線 3432
03－6734－2578（直通）

課題解決型高度医療人材養成プログラム　選定結果一覧

【取組１：医師・歯科医師を対象とした人材養成】

〔１－（１）：横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成〕

①医療の質管理領域（医療安全・感染制御）　申請件数：26件・選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	東京医科歯科大学		PDCA医療クオリティマネージャー養成
2	国	名古屋大学		明日の医療の質向上をリードする医師養成

②災害医療領域　申請件数：19件　　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	新潟大学		発災～復興まで支援する災害医療人材の養成
2	私	近畿大学	京都大学、大阪市立大学、関西医科大学、旭川医科大学	災害医療のメディカルディレクター養成

③臨床医学教育・研究領域　申請件数：15件　　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	京都大学		京大で臨床研究力／医学教育力を強化する！
2	国	琉球大学		臨床研究マネジメント人材育成

〔１－（２）：特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成〕

①難治性疾患診断・治療領域（臨床病理を含む）　申請件数：12件　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	金沢大学	富山大学、福井大学、金沢医科大学	北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン
2	国	信州大学	札幌医科大学、千葉大学、東京女子医科大学、京都大学、鳥取大学	難病克服！次世代スーパードクターの育成

②高難度手術領域　申請件数：12件　　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	熊本大学	長崎大学、岡山大学、金沢大学、新潟大学、千葉大学、京都大学	国内初の、肝臓移植を担う高度医療人養成
2	私	慶應義塾大学	東京医科大学、岩手医科大学	領域横断的内視鏡手術エキスパート育成事業

③小児周産期領域　申請件数：12件　　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	筑波大学	東京医科歯科大学	ITを活用した小児周産期の高度医療人養成
2	国	鳥取大学	秋田大学、山形大学、大阪市立大学	重症児の在宅支援を担う医師等養成

〔１－（３）：健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成〕

申請件数：3件　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	東京医科歯科大学	東北大学、新潟大学、東京歯科大学、日本歯科大学	健康長寿を育む歯学教育コンソーシアム
2	国	岡山大学	北海道大学、金沢大学、大阪大学、九州大学、長崎大学、鹿児島大学、岩手医科大学、昭和大学、日本大学、兵庫医科大学	健康長寿社会を担う歯科医学教育改革

【取組２：看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成】

〔２－（１）：地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成〕

申請件数：66件　選定件数5件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	群馬大学		群馬一丸で育てる地域完結型看護リーダー
2	国	信州大学		実践力ある在宅療養支援リーダー育成事業
3	国	鹿児島大学		地域での暮らしを最期まで支える人材養成
4	公	山形県立保健医療大学		山形発・地元ナース養成プログラム
5	私	東邦大学		都市部の超高齢社会に挑む看護師養成事業

〔２－（２）：指導力を有し地域医療で活躍できる薬剤師の養成〕

申請件数：27件　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	大阪大学		地域チーム医療を担う薬剤師養成プログラム
2	私	昭和大学		大学と地域で育てるホームファーマシスト

〔２－（３）：チーム医療に貢献でき、高い指導能力を持ったメディカルスタッフの養成〕

①生体機能回復支援領域（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士）

申請件数：24件　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	長崎大学		高度リハビリテーション専門職の養成
2	公	大阪府立大学		在宅ケアを支えるリハビリ専門職の育成

②生体機能診断支援領域（診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士）

申請件数：17件　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	筑波大学	茨城県立医療大学	多職種連携医療専門職養成プログラム
2	国	九州大学		実践能力強化型チーム医療加速プログラム

③口腔機能回復支援領域（歯科衛生士、歯科技工士）

申請件数：2件　選定件数1件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	東京医科歯科大学	広島大学、九州歯科大学	健康長寿に貢献する実践的チーム医療人育成

課題解決型高度医療人材養成推進委員会委員名簿

	江藤（えとう）　一洋（かずひろ）	社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 副理事長
○	大島（おおしま）　伸一（しんいち）	独立行政法人国立長寿医療研究センター名誉総長
	川本（かわもと）　利恵子（りえこ）	公益社団法人日本看護協会常任理事
	熊谷（くまがい）　和正（かずまさ）	公益社団法人全国老人福祉施設協議会副会長・ 業務執行理事
	小森（こもり）　貴（たかし）	公益社団法人日本医師会常任理事
	武田（たけだ）　純三（じゅんぞう）	独立行政法人国立病院機構東京医療センター病院長
	辻（つじ）　哲夫（てつお）	東京大学高齢社会総合研究機構特任教授
	中島（なかじま）　信也（しんや）	公益社団法人日本歯科医師会常務理事
	永田（ながた）　泰造（たいぞう）	公益社団法人日本薬剤師会常務理事
	半田（はんだ）　一登（かずと）	チーム医療推進協議会代表 公益社団法人理学療法士協会会長
	山口（やまぐち）　育子（いくこ）	NPO法人ささえあい医療人権センターCOML理事長

（五十音順　敬称略　計11名）

○　委員長

課題解決型高度医療人材養成プログラム　ペーパーレフェリー名簿①

（※ペーパーレフェリーは、書面審査を分担して実施）

【取組1：医師・歯科医師を対象とした人材養成】

安達　知子	総合母子保健センター愛育病院副院長
五十嵐　隆	国立成育医療研究センター理事長・総長
一山　智	京都大学大学院医学研究科教授
今村　知明	奈良県立医科大学医学部教授
岩田　敏	慶應義塾大学医学部教授
植村　和正	名古屋大学大学院医学系研究科教授
大友　康裕	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
大曲　貴夫	国立国際医療研究センター病院国際感染症センター長
奥寺　敬	富山大学大学院医学薬学教育部教授
小倉　真治	岐阜大学医学部附属病院長
小澤　敬也	東京大学医科学研究所附属病院長
落合　慈之	NTT東日本関東病院名誉院長
菊地　龍明	横浜市立大学病院准教授
北村　聖	東京大学大学院医学系研究科教授
葛原　茂樹	鈴鹿医療科学大学看護学部特任教授
小井土　雄一	国立病院機構災害医療センター臨床研究部長
小林　順二郎	国立循環器病研究センター病院副院長
小正　裕	大阪歯科大学歯学部教授
斎藤　隆史	北海道医療大学歯学部長
白鳥　敬子	東京女子医科大学医学部主任教授
杉浦　真弓	名古屋市立大学大学院医学研究科教授
丹沢　秀樹	千葉大学大学院医学研究院教授
津田　喬子	名古屋市立東部医療センター名誉院長
角町　正勝	角町歯科医院院長
寺﨑　浩子	名古屋大学大学院医学系研究科教授
豊島　勝昭	神奈川県立こども医療センター新生児科長
中島　和江	大阪大学医学部附属病院教授
中山　伸一	兵庫県災害医療センター長
白田　千代子	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科非常勤講師
橋本　重厚	福島県立医科大学医学部教授
花岡　英紀	千葉大学医学部附属病院教授
平形　道人	慶應義塾大学医学部教授
星長　清隆	藤田保健衛生大学長
俣木 志朗	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
松尾　清一	名古屋大学副総長
松本　純夫	国立病院機構東京医療センター名誉院長
水澤　英洋	国立精神・神経医療研究センター病院長
宮坂　信之	東京医科歯科大学名誉教授
桃井　眞里子	国際医療福祉大学副学長
山村　隆	国立精神・神経医療研究センター神経研究所免疫研究部長
吉崎　智一	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科教授

（五十音順　敬称略　計41名）

課題解決型高度医療人材養成プログラム　ペーパーレフェリー名簿②

（※ペーパーレフェリーは、書面審査を分担して実施）

【取組2：看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成】

秋山　正子	株式会社ケアーズ代表取締役
浅野　みどり	名古屋大学大学院医学系研究科教授
麻原　きよみ	聖路加国際大学看護学部教授
荒木　暁子	千葉県千葉リハビリテーションセンター看護局長
飯野　英親	西南女学院大学保健福祉学部教授
井戸　靖司	岐阜医療科学大学保健科学部教授
伊藤　義広	広島大学病院診療支援部長
上原　昭浩	長野中央病院事務次長
臼井　千恵	帝京大学医学部附属病院視能訓練士技師長
大湾　明美	沖縄県立看護大学看護学部教授
小山田　恭子	元社団法人全国社会保険協会連合会社会保険看護研修センター
交野　好子	敦賀市立看護大学長
串田　一樹	昭和薬科大学薬学部講師
児玉　直樹	高崎健康福祉大学健康福祉学部准教授
小牟田　智子	前東京医科歯科大学医学部附属病院看護部長
齋藤　訓子	公益社団法人日本看護協会常任理事
坂西　清	新潟県厚生農業協同組合連合会新潟医療センター
清水　多嘉子	がん研有明病院副看護部長
鈴木　順子	北里大学薬学部教授
武村　雪絵	東京大学医科学研究所附属病院副病院長
鶴見 隆正	学校法人湘南ふれあい学園大学設立準備室
手島　恵	千葉大学大学院看護学研究科教授
中村　明弘	昭和大学薬学部教授
中村　藤夫	新潟医療福祉大学医療技術学部教授
中村　順子	秋田大学大学院医学系研究科教授
新田　國夫	医療法人社団つくし会理事長
任　和子	京都大学大学院医学研究科教授
長谷川　賢一	東北文化学園大学医療福祉学部教授
花島　邦彦	有限会社サン・メディカル代表取締役
原田　俊和	熊本大学医学部附属病院ME機器センター主任臨床工学技士
平岡　　翠	名古屋市立大学病院副病院長
福井　小紀子	日本赤十字看護大学看護学部教授
藤原　英憲	公益社団法人日本薬剤師会常務理事
古橋　博美	公益社団法人日本歯科技工士会長
別府　千恵	北里大学病院副院長
政田　幹夫	福井大学医学部附属病院薬剤部教授
松井　恭平	前全国歯科衛生士教育協議会長
丸山 泉	医療法人社団豊泉会理事長
水間　正澄	昭和大学医学部教授
宮口　英樹	広島大学大学院保健学研究科教授
宮﨑　長一郎	公益社団法人日本薬剤師会常務理事

村嶋　幸代	大分県立看護科学大学理事長
望月　眞弓	慶應義塾大学薬学部教授
安原　眞人	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
山田　雅子	聖路加国際大学看護実践開発研究センター教授
山西　文子	東京医療保健大学副学長
吉田　直美	千葉県立保健医療大学健康科学部教授
渡邊　真知子	帝京大学薬学部教授

（五十音順　敬称略　計48名）

【資料２】

北國新聞　2014年（平成26年）7月30日（水曜日）　第4

認知症の専門医養成

文科省がプラン採択

金大など北陸4大学

文部科学省は29日までに、金大が富大、福井大、金沢医科大と共同申請した「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン」を同省の「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択した。4大学は今年度から連携して、地域の認知症診療・対策のリーダーとなる医師の養成に取り組む。

文科省は今年度、少子高齢化などの課題に関し、高度な医療を提供する医師らの教育プログラムを初めて公募していた。同省によると、高齢化の進展により患者数が急増している認知症など各種疾患の克服が社会的な課題となっているが、高度な医療を担う人材が不足している。このため同省は健康長寿社会の実現に向け、医師や歯科医師、看護師らの体系だった教育を支援する。

全国的に不足

金大など4大学は、「特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成」として採択された。最長5年間にわたり、年間5千万円を限度に補助金が交付される。認知症の専門医は全国的に不足しており、日本認知症学会が認定する全国の専門医数は、人口10万人当たりで1人にも満たないという。同学会のホームページによると、北陸では石川16人、福井4人、富山3人と、全国とほぼ同様に不足している状況であり、4大学は各大学と横断的に人材育成に努める。

中核となる金大では2001年、同大附属病院に「もの忘れ外来」を開設して世界最高水準の認知症治療を展開。06年からは七尾市中島町で認知症の有病率の調査や早期発見、予防に関する「なかじまプロジェクト」を行っており、こうした実績が評価され、採択に至ったとみられる。

公募には「医師と歯科医師」「看護師と薬剤師等のメディカルスタッフ」の人材養成に計235件の申請があり、計26件が選定された。金大関連ではこのほか、熊本大など7大学と共同申請した「国内初の、肝臓移植を担う高度医療人養成」、岡山大など10大学と連携する「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革」も選定された。

文科省では「全国のモデルとして普及させ得る体系立った教育プログラム・コースの構築に期待したい」としている。

北　國　新　聞　　２０１４年７月３１日（木曜日）

認知症プロ 4コースで

文科省採択 養成プラン発表

金大拠点、官民と連携

金大は30日、富大、福井大、金沢医科大と共同申請し、文部科学省の課題解決型高度医療人材養成プログラムに採択された「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン」の概要を発表した。金大を拠点に3大学、地域医療機関、自治体、民間企業を加えたネットワークをつくり、認知症に関する最先端の知識を持つ「認プロ」を4コースで育成する。超高齢化社会で課題となる認知症医療の水準を北陸から高め、世界で模範となるモデルの構築を目指す。

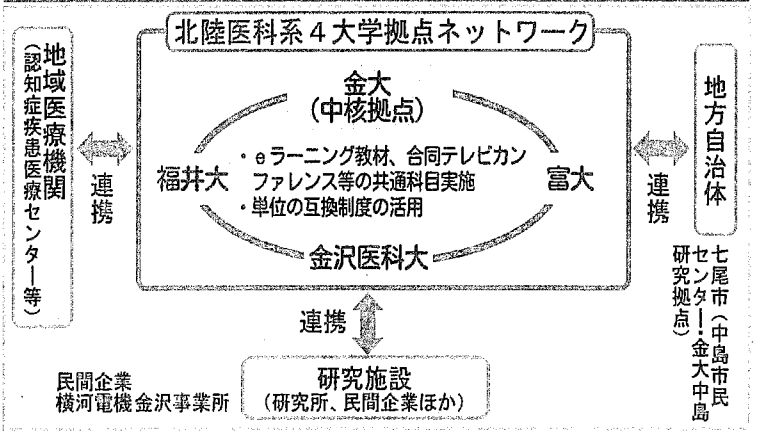
プランでは、定員1～3人程度の4コースを設定する。大学院生を対象に4大学すべてに設置するメーンコースの「認知症チームリーダー養成」は、最先端の脳科学や診療技術、予防法などに加え、患者のケアなどを講義、実地で学ぶ。認知症医療の分野で国際的な活躍を目指す意欲的な学生を募って、「スーパープロフェッショナル医」に育てる一貫教育コース、認知症関連で興味のある分野を集中的に学ぶコースもある。

略称は「認プロ」

現役医師も対象に

各地域医療機関の医師を対象にしたコースも設ける。認知症の早期発見や予防などに関する研修により、保健師や介護士らと連携した包括的支援ができる医師を増やす。金大が認知症の有病率の調査や予防に関するプロジェクトを行っている七尾市などの自治体や、診断機器の開発を進める計測機器メーカーの横河電機などとも連携する。

プロジェクトリーダーを務める金大医薬保健研究域医学系の山田正仁教授（神経内科学）によると、認知症医療は専門医養成の態勢が不十分で、全国的に質、量ともに不足している。日本認知症学会が認定する専門医は全国で827人（2014年3月現在）で、人口10万人当たり0・7人にとどまる。金大などのコースでは、学会認定医に要求されるレベルを上回る多角的な知識、技術を備えた専門医を育成できるとしている。



「最先端診療支える」

金沢市宝町の十全講堂での発表会見では、山崎光悦学長が「金大が中核となり、認知症の最先端診療を支えなければならない。重責を感じている」と語った。

山崎学長は4月の就任時に策定した大学改革計画「YAMAZAKIプラン」の中で、臨床研究と先進医療を担う人材育成を課題に掲げており、「今回の採択で、教育力だけでなく研究力が強化される」と期待を寄せた。

並木幹夫金大附属病院長は、自身が責任者の「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」（北陸がんプロ）になぞらえて、「『認プロ』の略称を使おうと思う」と述べ、テレビ会議やインターネット講座「eラーニング」を使った養成システムを紹介した。「患者への情報発信も重要な取り組みだ」と強調した。

会見には、井関尚一医薬保健研究域・学域長、山田正仁医学系教授が同席した。

専門医の養成プランについて語る（右から）並木、山崎、井関、山田の各氏＝金大宝町キャンパスの十全講堂

（第3種郵便物認可）

認知症プロ医師養成

金大や3大学連携　来年度から実施

認知症治療についてハイレベルな知識や技術を持つ専門医「認プロ」（仮称）の養成に、金沢大（金沢市）が北陸三県の三大学とともに乗り出す。超高齢化社会を背景に認知症患者が急増する一方、専門医不足が全国的な問題になっている。学生だけでなく地域の医師も対象に育て、認知症治療の地域モデルづくりを目指す。

事業は「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン」と題し、文部科学省の補助事業「課題解決型高度医療人材養成プログラム」に採択された。富山大、福井大、金沢医科大と連携する。

大学院生対象の「本科コース」、地域の医師対象の「研修コース」、学部生から養成する「スーパーコース」―など四つのプログラムを設定。地域でのフィールド研修をはじめ、最先端の検査法を含む診断学、予防。治療薬の開発研究など、幅広い知識と技術を習得する教育を行う。

本年度はプログラム内容を策定し、来年度から本格実施する。文科省からは本年度から最大五年間、年五千万円が交付される。

厚生労働省の推計では全国の認知症患者は四百六十二万人、予備軍とされる軽度の認知障害は四百万人に上り、いずれも六十五歳以上の15％を占める。一方専門医は全国で八百二十七人、北陸三県で二十二人にすぎない。

認知症の高度な専門医養成プランを発表する金沢大の山崎光悦学長（右から2人目）ら＝金沢大病院で

金沢大病院は神経内科もの忘れ外来で千人以上の認知症患者を診療したほか、最先端の研究。治療に取り組む。これらの実績を地域医療に生かし、治療技術の底上げを図る。

プロジェクトリーダーの山田正仁教授は三十日の会見で「診療のリーダーとなるプロを育て、社会の要請に応えたい」と述べた。（小室亜希子）

【資料３】

写

26 文科高第 407 号
平成 26 年 8 月 14 日

金沢大学長　殿

文部科学省高等教育局長
吉　田　　大　輔

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」審査結果について (通知)

貴大学から申請のあった標記のプログラムについて、課題解決型高度医療人材養成推進委員会における審査の結果に基づき、選定されましたので通知します。

また、別添１の「課題解決型高度医療人材養成推進委員会所見」及び「選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント」のとおり、推進委員会から要望事項や主なコメントが示されており、貴大学におかれましては、別添１の内容を踏まえた事業の更なる改善・充実等に努めていただきますようお願いします。

なお、別添１に基づき、別添２のとおり工程表・作成要領を示しますので、事業の達成目標や事業期間中の取組内容等について御記入の上、平成 26 年 12 月 19 日（金）までに下記担当宛て御提出いただきますようお願いします。

加えて、別添１及び選定大学の申請書を当省のホームページに掲載することを申し添えます。(http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryou/1350317.htm)

記

取組名称：特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成
（難治性疾患診断・治療領域）
事業名：北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン

(本件連絡先)
文部科学省高等教育局医学教育課
大学病院支援室病院第二係　西尾、高原、小林
〒100-8959　東京都千代田区霞が関３－２－２
ＴＥＬ：０３－６７３４－２５７８
E-mail：igabyoin@mext.go.jp

平成２６年７月２３日

「課題解決型高度医療人材養成推進委員会」所見

○　このたび、本委員会は「課題解決型高度医療人材養成プログラム」について、本年６月に申請のあった２３５件の事業のうち、事業の構想（事業の全体構想、教育プログラム・コースの優秀性）及び事業の実現可能性（事業の運営体制、事業継続・普及に関する構想）等について審査を行い、特に優れた２６件（医師・歯科医師を対象とした取組１４件、看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした取組１２件）の取組を選定しました。

○　選定に当たって、本委員会が特に重視した点は、大学・大学病院が、これからの時代に応じた医療人材の養成に取り組む事業であるかという点です。

大学・大学病院の役割は、これまでの高度な医療人材の養成とともに、地域の医療機関等と緊密な連携を図りながら、超高齢社会に対応できる新たな教育・実践の取組を展開していくことが重要であると考えています。

これは、医療関係職種の養成課程を置く全ての大学に共通する今後の課題ですので、各大学においては、自大学の教育理念・ミッションや今後の人材育成のあるべき姿について、今一度学内で議論していただきたいと思います。

○　上記を踏まえた上で、選定された各大学に対して、以下のことを要望します。

①　事業期間中は、ＰＤＣＡサイクルによる工程管理を行った上で、全国の模範となるよう体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成につながる取組や体制を構築すること。

②　事業の実施に当たっては、学長・学部長等のリーダーシップのもと、責任体制を明確にした上で、全学的な実施体制で行うこと。また、地域医療の充実やチーム医療の推進の観点からも、学外の有識者にも積極的に参画いただき、事業の構想を実現できる体制を構築すること。

③　事業期間終了後も各大学において事業を継続することを念頭に、具体的な事業継続の方針･考え方について検討すること。また、多くの大学に自らの教育改革を進める議論に活用してもらうため、選定大学が開発・実践する教育プログラムから得られる成果等を、可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。

○　今回、優れた事業や特色ある事業でありながら、残念ながら選定にいたらなかった事業が多数ありました。選定されなかった各大学においては、本委員会から、申請いただいた事業に対する所見をお伝えしますので参考にしていただくとともに、今後も地域・社会からの高いニーズに応えるべく、本事業の趣旨も生かした特色ある人材育成に取り組んでいただくことを強く期待しています。

課題解決型高度医療人材養成推進委員会
委員長　大島　伸一

課題解決型高度医療人材養成プログラム
選定事業の概要と推進委員会からの主なコメント

［取組１］医師・歯科医師を対象とした事業
（２）特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成
①　難治性疾患診断・治療領域（臨床病理を含む）

整理番号	7

申請担当大学名 （連携大学名）	金沢大学 （富山大学、福井大学、金沢医科大学）計４大学
事業名	北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン
事業責任者	医薬保健研究域長・医薬保健学域長　井関　尚一

事業の概要

本プランは北陸の医科系４大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）が地域医療機関、研究機関、自治体等と連携して実施する。①本科コース（認知症チーム医療リーダー養成）を中心に、②インテンシブ研修コース（地域認知症専門医師研修）、③スペシャル研修コース（認知症・神経難病の臨床病理研修、地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修など）、及び④スーパーコース（認知症スーパープロフェショナル養成のための卒前・卒後一貫教育）からなる。本科コースでは、高度の知識・技能を有する認知症チーム医療リーダー医師養成、研修コースでは、地域医療機関を活動拠点とする医師の認知症専門研修（インテンシブ）と認知症・神経難病の臨床・病理研修や地域フィールド研修などの特色のある領域の短期研修（スペシャル）、スーパーコースでは、卒前・卒後一貫教育により高度な研究力を有する認知症スーパープロフェッショナル医養成を行う。

推進委員会からの主なコメント　　○：優れた点等、●：充実を要する点等

○様々な学会で認知症専門医を設定しているが、大学教育の中での取り組みはまれであり評価できる。
○地域医療の医師やチーム医療リーダー育成なども地域包括ケアの観点で期待できる。
○大学ごとの教育内容に特色がある。
○認知症の専門家を養成することは重要である。
○申請担当校のミッションと一致している。
○高齢化社会において認知症専門医を育成することは急務であるが、既に「なかじまプロジェクト」として北陸においてモデル研究が始まっており、効果が期待できる。
●認知症に関する臨床研究の推進や、社会医学的な面でのプログラムはやや具体性に乏しいのではないか。
●大学院コースにおける養成対象について、医師、看護師、その他の区別が不明な箇所がある。
●キャリア教育・キャリア形成支援の欄が空欄であるが、事業を展開する上で履修者のキャリアパス支援は非常に重要であることから、検討いただきたい。
●認知症専門医のみでなく、認知症を理解するコメディカルの育成も必要と思われることから可能な範囲で検討いただきたい。

26 文科高第 469 号
平成 26 年 9 月 10 日

国立大学法人金沢大学長　殿

文部科学省高等教育局長
吉　田　大　輔

平成 26 年度大学改革推進等補助金「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の交付内定について（通知）

標記のことについて、下記のとおり補助金の額を内定したので通知します。

つきましては、大学改革推進等補助金交付要綱等に従って交付申請書等関係書類を作成し、文部科学省高等教育局医学教育課へ提出願います。

本補助金については、「補助金等にかかる予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号）」等の適用を受けますので、補助金の取扱いについて遺漏のないようお願いします。

なお、平成26年度事業については、平成26年9月10日より事業を開始し、必要な契約等を行っていただいて差し支えありませんが、補助金の振り込み時期は12月以降を予定しているため、必要な経費は補助金受領後に支出するか、大学等が立て替えて補助金受領後に精算してください。

記

事　業　名　称　：　北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン

補助対象経費の総額　：　50,000 千円

補助金交付内定額　：　50,000 千円

【提出先】
文部科学省 高等教育局 医学教育課
大学病院支援室 病院第二係　西尾、高原、小林
〒　100－8959　東京都千代田区霞が関 3-2-2
電話：03-5253-4111（内線　2578）
FAX　：03-6734-3390　E-Mail:igabyoin@mext.go.jp

【資料５】

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業共同実施協定書

国立大学法人金沢大学（以下「甲」という。）、国立大学法人富山大学（以下「乙」という。）、国立大学法人福井大学（以下「丙」という。）及び金沢医科大学（以下「丁」という。）は、北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業（以下「本事業」という。）を共同して実施するため次のとおり協定を締結する。

（目的）

第１条　本事業は、甲、乙、丙及び丁が認知症診療に特化した教育プログラムを共同して実施することにより、北陸地域におけるハイレベルの認知症専門医師を養成することを目的とする。

（事業内容）

第２条　本事業で実施する教育プログラムとして、甲、乙、丙及び丁において、次の各号に掲げるコースを設置するものとする。

（１）認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）

（２）地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ研修コース）

２　甲においては、本事業の中核拠点として、前項各号に掲げるコースのほか、次の各号に掲げるコースを設置するものとする。

（１）認知症・神経難病の臨床病理研修コース(スペシャル研修コース)

（２）地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル研修コース）

（３）認知症スーパープロフェッショナル医養成のための卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）

（運営組織の設置）

第３条　甲、乙、丙及び丁は、本事業を円滑に実施・運営するため運営組織を設置するものとする。

（事業経費の配分）

第４条　甲は本事業を実施・運営するため、文部科学大臣から交付を受けた大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）を、乙、丙及び丁に配分するものとする。

２　乙、丙及び丁は、前項の補助金の配分を受けるときは、振込依頼書を甲に提出するものとする。

（経理）

第５条　甲、乙、丙及び丁は、本事業の実施・運営にあたって、大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）取扱要領を遵守しなければならない。

（実績報告）

第６条　乙、丙及び丁は、毎年度の補助事業完了時に、大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）取扱要領に準じた実績報告書を甲に提出しなければならない。

（協定期間）

第７条　この協定の有効期間は、協定締結の日から平成２７年３月３１日までとする。ただし、本協定の有効期間満了の日の３０日前までに甲、乙、丙及び丁のいずれからも改廃の申し出がないときは、更に１年間更新継続するものとし、その後も同様とする。

（協議）

第８条　この協定に定めのない事項又は本協定の内容に疑義が生じたときは、その都度、甲、乙、丙及び丁が協議の上、定めるものとする。

本協定締結の証として、本協定書４通を作成し、甲、乙、丙及び丁がそれぞれ１通を保管するものとする。

平成２６年９月１０日

甲　国立大学法人金沢大学長　　山　崎　光　悦

乙　国立大学法人富山大学長　　遠　藤　俊　郎

丙　国立大学法人福井大学長　　眞　弓　光　文

丁　金沢医科大学長　　勝　田　省　吾

【資料６】

写

26 受文科高第 1411 号
平成 26 年 10 月 15 日

国立大学法人金沢大学長　殿

文部科学省高等教育局長
吉　田　大　輔

平成 26 年度大学改革推進等補助金「大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業（課題解決型高度医療人材養成プログラム）」の交付決定について（通知）

標記について、別紙「交付決定通知書」のとおり交付決定されましたので通知します。

つきましては、交付決定通知書に記載の補助条件、平成 26 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）取扱要領等を踏まえ、補助金の適正かつ迅速な執行に努められるようにお願いします。

なお、本補助金は、支払計画の範囲内での請求に基づき、必要に応じて概算払が可能なものとします。支払時期になりましたら御連絡しますので、その際はさきに提出した「平成 26 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）支払計画表」等に基づいて書類を作成し、下記まで提出願います。

【補助金の執行等に関する問合せ先・書類提出先】
〒100-8959　東京都千代田区霞が関 3-2-2
文部科学省 高等教育局 医学教育課
大学病院支援室 病院第二係 西尾、高原
電話：03-5253-4111（内線 2578）
FAX：03-6734-3390
E-Mail：igabyoin@mext.go.jp

26 受文科高第 1411 号
平成 26 年 10 月 15 日

国立大学法人金沢大学長　殿

文 部 科 学 大 臣
下 村　博 文

平成 26 年度大学改革推進等補助金「大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業（課題解決型高度医療人材養成プログラム）」
交付決定通知書

さきに交付申請のありました平成 26 年度大学改革推進等補助金「大学・大学院及び附属病院における人材養成機能強化事業（課題解決型高度医療人材養成プログラム）」につきましては、大学改革推進等補助金交付要綱第 5 条第 1 項の規定に基づき、下記のとおり交付することに決定しましたので、通知します。

記

1．補助金の交付の対象となる事業名称は次のとおりであり、その内容は交付申請書に記載のとおりとする。

事業名称：北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン

2．補助対象経費及び補助金の額は次のとおりであり、各補助対象経費の額は交付申請書記載のとおりとする。

補助対象経費の総額：　50,000 千円
補助金交付決定額　：　50,000 千円

3．補助事業者は、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和 30 年法律第 179 号）、同法施行令（昭和 30 年政令第 255 号）及び大学改革推進等補助金交付要綱（平成 17 年 4 月 1 日文部科学大臣決定）に従わなければならない。また、その他関係法令を遵守すること。

4．補助条件は、前項に定めるもののほか次のとおりとする。

（1）補助事業の実施期間は、交付申請書に記載された補助事業の完了予定日までとする。

（2）補助事業者は、補助事業を遂行するため契約を締結し支払を行う場合は、公正かつ最小の費用で最大の効果を上げるように経費の効率的使用に努めなければならない。

（3）補助事業者が、この補助金による成果により利益を得た場合には、その利益の範囲内で補助金の返還を命ずることがある。

（4）補助事業者が、取得財産等を処分することにより、収入があり、又は収入があると見込まれるときは、交付した補助金の全部又は一部に相当する金額を国に納付させることができる。

（5）補助事業者は、補助事業の実施に当たり、法令、通知及び各大学等で定められた規定等により、承認・届出・確認等が必要な場合は所定の手続を行わなければならない。

5．この交付決定の内容又はこれに付した条件に不服があることにより、補助金交付の申請を取り下げようとするときは、平成 26 年 10 月 29 日（水）までにその旨を記載した書面を文部科学大臣に提出すること。

北陸認知症プロフェショナル医養成プラン運営組織に関する申合せ

（趣旨）

第１条　この申合せは，北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン共同事業協定書第４条の規定に基づき，金沢大学，富山大学，福井大学及び金沢医科大学（以下，「構成大学」という。）において，北陸認知症プロフェショナル医養成プラン（以下「北陸認プロ」という。）の運営組織に関し，必要な事項を定める。

（北陸認プロ事業推進委員会）

第２条　構成大学間で北陸認プロの事業を運営するため，北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業推進委員会（以下「事業推進委員会」という。）を置く。

２　事業推進委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

（１）北陸認プロの基本方針及び実施に関する事項

（２）北陸認プロの予算及び決算に関する事項

（３）北陸認プロの外部評価に関する事項

（４）その他北陸認プロの運営に関する必要な事項

３　事業推進委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。

（１）事業推進責任者（金沢大学医薬保健学域長）

（２）プロジェクトリーダー

（３）金沢大学各関連講座が選出する責任者

（４）富山大学各関連講座が選出する責任者

（５）福井大学各関連講座が選出する責任者

（６）金沢医科大学各関連講座が選出する責任者

（７）その他事業推進委員会が必要と認めた者

４　事業推進委員会に委員長を置き，プロジェクトリーダーをもって充てる。

５　事業推進委員会は，委員（海外渡航者及び休職者を除く。）の過半数が出欠しなければ，会議を開き，議決することができない。

６　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは委員長の決するところによる。

７　事業推進委員会は，必要あると認めたときは，委員以外の者を会議に出席させ，意見を聴くことができる。

（北陸認プロ教務委員会）

第３条　事業推進委員会の下に，構成大学間で北陸認プロの教育コースを実施するため，北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン教務委員会（以下「教務委員会」という。）を置く。

2　教務委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。
（1）教育コースの開発・編成並びに募集・登録に係る企画及び立案，調整に関する事項
（2）教育コースの修了認定に関する事項
（3）市民公開講座及びシンポジウムの企画及び実施に関する事項
（4）ｅラーニングの企画及び実施に関する事項
（5）FD の企画及び実施に関する事項
（6）4 大学合同症例カンファレンスの企画及び実施に関する事項
（7）広報（ホームページを含む）に関する事項
（8）その他北陸認プロの教育コースの実施に関する必要な事項
3　教務委員会は，次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（1）プロジェクトリーダー
（2）金沢大学各関連講座が選出する教務担当者
（3）富山大学各関連講座が選出する教務担当者
（4）福井大学各関連講座が選出する教務担当者
（5）金沢医科大学各関連講座が選出する教務担当者
（6）各構成大学が推薦する関連地域医療機関からの委員
（7）その他教務委員会が必要と認めた者
4　教務委員会に委員長を置き，プロジェクトリーダーをもって充てる。
5　教務委員会は，委員（海外渡航者及び休職者を除く。）の過半数が出欠しなければ，会議を開き，議決することができない。
6　議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは委員長の決するところによる。
7　教務委員会は，必要あると認めたときは，委員以外の者を会議に出席させ，意見を聴くことができる。

（北陸認プロ運営協議会）
第５条　北陸認プロの事業を実施するにあたり関係団体からの意見を求めるため，北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営協議会（以下「運営協議会」という。）を置く。
2　運営協議会は事業推進委員会に指導，助言等を行うことができる。
3　運営協議会は次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（1）事業推進代表者（金沢大学長）
（2）第２条第３項第１号から第６号までに規定する者
（3）各大学が推薦する関連地域医療機関からの委員
（4）石川県医師会から推薦された委員
（5）富山県医師会から推薦された委員

（６）福井県医師会から推薦された委員
（７）石川県健康福祉部から推薦された委員
（８）富山県厚生部から推薦された委員
（９）福井県健康福祉部から推薦された委員
（10）その他運営協議会が必要と認めた者
４　運営協議会に委員長を置き，プロジェクトリーダーをもって充てる。

（北陸認プロアドバイザリーボード）
第３条　北陸認プロの事業に対する外部評価を行うため，北陸認知症プロフェッショナル医養成プランアドバイザリーボード（以下「アドバイザリーボード」という。）を置く。
２　アドバイザリーボードは，外部の委員（認知症の専門家の立場，地域医療連携の立場，国民一般の立場等）若干名をもって組織する。
３　アドバイザリーボードに委員長を置き，委員の互選をもって充てる。
４　アドバイザリーボードは，原則として年１回北陸認プロの成果報告に基づき評価を行い，外部評価結果を作成する。
５　アドバイザリーボードの委員は事業推進責任者である金沢大学医薬保健学域長が委嘱する。

（北陸認プロ運営事務局）
第６条　金沢大学に北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン運営事務局（以下，「事務局」という。）を置く。
２　事務局は，北陸認プロの事業を行うために，構成大学間の調整を行う。
３　事務局は，金沢大学医薬保健系事務部学生課が中心となり，関係大学及び金沢大学医薬保健系事務部関係各課が協力するものとする。

（雑則）
第７条　この申合せに定めるもののほか，北陸認プロの運営に関し，必要な事項は，別に定める。

附　則
この申合せは，平成２６年１１月１日に施行する。

【資料８】

課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン　事業推進委員会委員名簿

氏　名	所　属　等
井関　尚一	金沢大学医薬保健学域長
山田　正仁	金沢大学大学院脳老化・神経病態学 教授
三邉　義雄	金沢大学大学院脳情報病態学 教授
鈴木　道雄	富山大学大学院神経精神医学 教授
田中 耕太郎	富山大学附属病院神経内科 教授
和田　有司	福井大学医学部附属病院 病院長
濱野　忠則	福井大学医学部病態制御医学内科学（２）准教授
森本　茂人	金沢医科大学高齢医学 教授
川﨑　康弘	金沢医科大学精神神経科学 教授
松井　真	金沢医科大学神経内科学 教授

課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン　教務委員会委員名簿

氏　名	所　属　等
山田　正仁	金沢大学大学院脳老化・神経病態学 教授
小野　賢二郎	金沢大学附属病院神経内科 講師
濵口　毅	金沢大学附属病院神経内科 助教
坂井　健二	金沢大学附属病院神経内科 助教
野崎　一朗	金沢大学大学院脳老化・神経病態学 特任助教
篠原　もえ子	金沢大学大学院脳老化・神経病態学 助教
佐村木　美晴	金沢大学大学院脳老化・神経病態学 特任助教
橋本　隆紀	金沢大学大学院脳情報病態学 准教授
長澤　達也	金沢大学附属病院神経科精神科 講師
戸田　重誠	金沢大学附属病院神経科精神科 講師
高橋　努	富山大学大学院神経精神医学 准教授
高嶋　修太郎	富山大学附属病院神経内科 准教授
濱野　忠則	福井大学医学部病態制御医学内科学（２） 准教授
山村　修	福井大学医学部地域医療推進 講師
林　浩嗣	福井大学医学部附属病院第２内科 助教
東間　正人	福井大学医学部病態制御医学精神医学 准教授
田中　悠二	福井大学医学部病態制御医学精神医学 助教
上野　幹二	福井大学医学部病態制御医学精神医学 助教
大黒　正志	金沢医科大学高齢医学 准教授
富岳　亮	金沢医科大学神経内科学 准教授
上原　隆	金沢医科大学精神神経科学 講師
松成　一朗	財）先端医学薬学研究センター 臨床研究開発部 部長
駒井　清暢	国立病院機構医王病院 副院長
石田　千穂	国立病院機構医王病院 臨床研究部部長
北村　立	石川県立高松病院 院長
島崎　正夫	医療法人社団和敬会谷野呉山病院 診療部長
葛野　洋一	医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院 院長
細川　宗仁	国立病院機構北陸病院 医長
市川　俊介	国立病院機構北陸病院 医長
池田　真由美	国立病院機構北陸病院 医長
伊藤　達彦	福井県立すこやかシルバー病院 院長

【資料１０】

課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン　運営協議会委員名簿

氏　名	所　属　等
山崎　光悦	金沢大学　学長
井関　尚一	金沢大学医薬保健学域長
山田　正仁	金沢大学大学院脳老化・神経病態学 教授
三邉　義雄	金沢大学大学院脳情報病態学 教授
鈴木　道雄	富山大学大学院神経精神医学 教授
田中 耕太郎	富山大学附属病院神経内科 教授
和田　有司	福井大学医学部附属病院　病院長
濱野　忠則	福井大学医学部病態制御医学内科学(2) 准教授
森本　茂人	金沢医科大学高齢医学　教授
川﨑　康弘	金沢医科大学精神神経科学　教授
松井　真	金沢医科大学神経内科学　教授
松成　一朗	財）先端医学薬学研究センター　臨床研究開発部 部長
駒井　清暢	国立病院機構医王病院 副院長
北村　立	石川県立高松病院 院長
石倉　直美	医療法人社団和敬会谷野呉山病院 精神保健福祉士
葛野　洋一	医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院 院長
坂本　宏	国立病院機構北陸病院 院長
伊藤　達彦	福井県立すこやかシルバー病院 院長
菊地　修一	石川県健康福祉部 次長
井内　努	富山県厚生部 理事 次長
北　慶一	福井県健康福祉部 企画幹
洞庭　賢一	公益社団法人石川県医師会 理事
池端　幸彦	一般社団法人福井県医師会 副会長
渡辺　多恵	公益社団法人富山県医師会 理事 小矢部大家病院 院長

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン事業
第１回教務委員会議事次第

日　時：平成２６年１２月２６日（金）１９時００分から
場　所：金沢大学附属病院　金大病院 CPD センター研修室（外来診療棟４階）

議題
１　大学院における教育コースの位置づけについて（金沢大学の例について説明）/資料１
２　認プロ教育コース履修科目について（協議）/資料２、３
３　認プロ教育コース科目開講までのスケジュールについて（協議）/資料４
４　認プロ教育コースの募集要項について/資料５
５　その他
a　キックオフ市民公開講座
日時：平成２７年２月２２日（日）
会場：北國新聞赤羽ホール　金沢市南町２−１

b　キックオフシンポジウム・第１回運営協議会・第１回アドバイザリーボード
日時：平成２７年３月２２日（日）
会場：ホテル日航金沢　金沢市本町２−１５−１

c　ホームページ開設　http://ninpro.jp

配布資料
資料１/大学院における認プロ教育コースの位置づけについて（金沢大学の例）
資料２/教育コース（案）
資料３/教材作成の手引き
資料４/科目開講までのスケジュール
資料５/教育コースの概要

平成２６年度第１回北陸認知症プロフェショナル医養成プラン
教務委員会の議事概要について

日　時：平成成２６年１２月２６日（金）１９時～２１時
場　所：金沢大学附属病院金大病院 CPD センター研修室
出席者：【金沢大学】山田正仁、小野賢二郎、濵口 毅、坂井健二、野崎一朗、
篠原もえ子、佐村木美晴、橋本隆紀
【福井大学】濱野忠則、林　浩嗣、東間正人
【金沢医科大学】大黒正志、富岳　亮、上原　隆
【（財）先端医学薬学研究センター】松成一朗
【国立病院機構医王病院】駒井清暢、石田千穂
【石川県立高松病院】北村　立
【国立病院機構北陸病院】細川宗仁
事務陪席者：【富山大学】荒田一成
【福井大学】諏訪泰重、出口雅弘
【金沢医科大学】杉原一良
【福井県すこやかシルバー病院】山口博朗
【金沢大学】穴倉千恵
【認プロ事務局】善財千香子、石津玲美、谷中和恵

議　題
協議
１　認プロ教育コースの位置付けについて
金沢大学医薬保健系事務部学生課から、資料１に基づき大学院における教育コースの位置付けについて、金沢大学の例を用いて報告があった。続いて、修了認定書（仮称）は、事業推進責任者の金沢大学医薬保健学域長名で交付予定である旨の報告があった。
なお、修了認定書（仮称）の価値とその交付について、次のとおり意見交換があり、各大学で価値を高めるために可能である最適な方法を探っていくこととなった。
○がんプロでは、履修生が増えれば価値が出てくるのではないかと話している。（金沢医科大学事務陪席者）

○がんプロは、ＮＰＯ法人より交付している。（富山大学事務陪席者）

２　認プロ教育コースの履修科目（案）について

プロジェクトリーダーから、資料２に基づき、教育コース、科目、ｅラーニング授業担当者等について説明があり、協議の結果、次のとおり了承された。

○ｅラーニング授業担当者等の変更がある場合は、１月９日までに認プロ事務局まで報告いただくこと。

○ｅラーニング授業担当者等が確定する１月末に、教育コース及びｅラーニング収録スケジュール等について改めて案内すること。

○福井大学及び金沢医科大学の事務担当者から、学内でｅラーニングが見られないとの報告があり、認プロ事務局で業者に確認することとなった。

○福井大学の濱野委員から、ｅラーニングのテーマとして若年性認知症の提案があり、テーマとして追加することを検討することとなった。

○石川県立高松病院の北村委員から、ｅラーニング収録後に修正があった場合に、全編収録し直すのではなく、変更箇所だけを収録し直すことができないか質問があり、認プロ事務局で業者に確認することとなった。

なお、認プロ事務局から、資料３に基づき、ｅラーニング（確認テストを含む）の作成について説明を行い、がんプロｅラーニングのデモを参考として上映した。

３　認プロ教育コースの科目開講までのスケジュールについて

プロジェクトリーダーから、資料４に基づき、説明があり、協議の結果、了承された。

４　認プロ教育コースの募集要項について

金沢大学医薬保健系事務部学生課から資料５に基づき、教育コースについて説明があり、協議の結果、次のとおり了承された。

○本科コースの修了要件を１０単位から８単位とし、科目名を変更したこと。

○インテンシブコースの修了要件を５単位から４単位としたこと。

○「教育内容の特色等」及び「指導体制」、「教育プログラムコース修了者の

キャリアパス構想」について変更があれば，１月９日までに認プロ事務局まで報告いただくこととなった。

○富山大学の修了要件を３２単位から３０単位としたこと。

○募集要項を４大学で共通とすること。

○本科コースは、入学予定者を対象とし、在学生については、現在検討していないこと。

○産休，育休中でも本科コース入学は、可能であることとなった。

○修了要件に必須単位はないこと。

○認知症に関する学位論文は、修了の条件となること。

○インテンシブコースの対象者は、地域医療機関に勤務している医師だが、大学院生をはじめ認知症を勉強したい方も受講できるよう検討していくこととなった。

○インテンシブコースの登録方法について、４大学事務担当者で検討することとなった。

以　上

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
（医師養成プログラム）
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

平成27年度
教育コース履修者募集要項

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科
富山大学大学院医学薬学教育部
福井大学大学院医学系研究科
金沢医科大学大学院医学研究科

目　　次

・ 教育コース履修者の募集について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

・ 北陸認知症プロフェッショナル医養成プランについて ・・・・・・・・・・・・・ 2

・ 教育コースの概要

〇認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）

金沢大学 ・・ 3

富山大学 ・・ 4

福井大学 ・・ 5

金沢医科大学 ・・・ 6

〇地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）

金沢大学 ・・ 7

富山大学 ・・ 8

福井大学 ・・ 9

金沢医科大学 ・・・ 10

〇認知症・神経難病の臨床病理研修コース（スペシャル）

金沢大学 ・・ 11

〇地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル）

金沢大学 ・・ 12

〇認知症スーパープロフェッショナル養成のための

卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）

金沢大学 ・・ 13

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム（医師養成プログラム）
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
教育コース履修者の募集について

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）は北陸の医科系４大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）が地域医療機関、研究機関、自治体等と連携して実施します。本科コース（認知症チーム医療リーダー養成）を中心に、インテンシブ研修コース（地域認知症専門医師研修）、スペシャル研修コース（認知症・神経難病の臨床病理研修、地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修など）、及びスーパーコース（認知症スーパープロフェショナル養成のための卒前・卒後一貫教育）を設けます。本科コースでは、高度の知識・技能を有する認知症チーム医療リーダー医師養成、研修コースでは、地域医療機関を活動拠点とする医師の認知症専門研修（インテンシブ）と認知症・神経難病の臨床・病理研修や地域フィールド研修などの特色のある領域の短期研修（スペシャル）、スーパーコースでは、卒前・卒後一貫教育により高度な研究力を有する認知症スーパープロフェッショナル医養成を行います。

１．募集教育コース

① 認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
募集大学【金沢大学】【富山大学】【福井大学】【金沢医科大学】

② 地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）
募集大学【金沢大学】【富山大学】【福井大学】【金沢医科大学】

③ 認知症・神経難病の臨床病理研修コース（スペシャル）
募集大学【金沢大学】

④ 地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル）
募集大学【金沢大学】

⑤ 認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）
募集大学【金沢大学】

２．募集人員，対象者
本要項に掲載の教育コースの概要で確認ください。

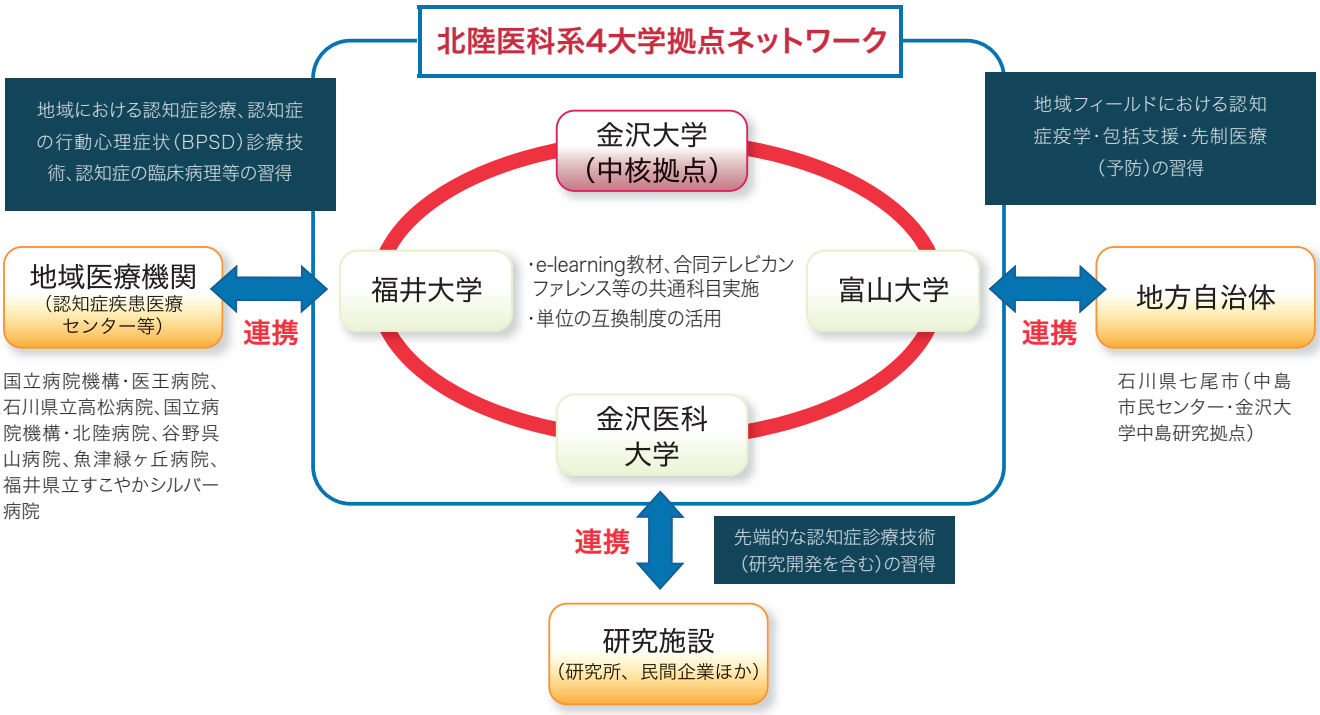
３．受講料
無料（大学院生又は大学生は，別途大学院又は大学の授業料を納付ください。）

４．受け入れ時期
本科コース　４月又は１０月（他のコースは随時）

５．申請書請求
申請書は本要項裏面に記載の申請する大学の事務担当まで請求ください。

６．申請書類
・北陸認知症プロフェショナル医養成プラン（認プロ）履修申請書（所定様式），
・卒業証明書（本科コース，スーパーコース申請者は不要）

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン



大学拠点間のネットワークを活用した
地域医療機関・研究施設・自治体との連携による特色のあるプログラムの設置

1. 認知症チームリーダー養成コース（本科コース）（大学院生が対象、全大学に設置するメインプログラム）
2. 地域認知症専門医師研修コース（インテンシブコース）（地域医療機関に勤務する医師が対象、全大学に設置）
3. スペシャルコース（認知症・神経難病の臨床病理研修、地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修ほか）
4. スーパーコース（認知症スーパープロフェッショナル医養成のための卒前・卒後一貫教育コース）

養成する人材

認知症に関して高度な知識や技能を有し、地域における認知症診療・認知症対策のリーダーとなる認知症プロフェッショナル医師を養成する。

教 育 コ ー ス の 概 要

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳医科学専攻
教育プログラム・コース名	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
対象者	医薬保健学総合研究科脳医科学専攻大学院生
修業年限（期間）	４年
養成すべき人材像	国際的視野を有し、認知症診療に関する幅広い知識・技術を有する認知症診療専門医師。認知症チーム医療のリーダー。
修了要件・履修方法	認知症プロフェッショナル授業科目８単位を含む３０単位以上の授業科目の履修と、認知症に関係する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	認知症プロフェッショナル授業科目＊（８単位以上取得が必須。e-learning授業やテレビカンファレンス受講による単位認定を含む） ＊認知症プロフェッショナル科目（４大学が協力して設置） ４月以降認プロホームページでご案内いたします。 ４大学合同カンファレンス、当プログラム公認の地域における研究会等への出席、CPCへの出席を含む。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースでは、地域医療機関等との連携のもとに、認知症性疾患の理解、ハイレベルの認知症診療能力育成に必須の認知症関連授業科目を履修し単位を取得し、併せて認知症関連論文を学位論文として完成させる。認知症関連授業科目の教育内容は、アミロイドPET（先端医学薬学研究センターと連携）、疾患修飾薬臨床試験（金沢大学病院）等のなどの先端的認知症診療技術の習得、地域（七尾市との共同で認知症地域プロジェクトを実施中）における認知症疫学・先制医療・包括支援の習得、多数の剖検を実施している神経難病専門施設（国立病院機構・医王病院）との連携による神経病理学的基盤の理解、認知症専門施設（石川県立高松病院、国立病院機構・北陸病院）との連携による認知症の行動心理症状（BPSD）及び重度認知症の診療技術の習得などの特色を有し、学会認定教育病院における研修を要件とする認知症専門医取得のために要求される研修内容を遥かに超えた教育内容を備えている。
指導体制	大学および連携機関に所属する認知症の各領域のエキスパートであるスタッフが、認知症の臨床、基礎、研究について直接指導する体制をとる。具体的には、金沢大学の認知症専門医師・研究者を中心に、当地域の認知症疾患医療センターである石川県立高松病院及び国立病院機構・北陸病院（地域認知症・BPSD診療）、国立病院機構・医王病院[神経難病・神経病理研修（日本神経病理学会認定施設）]、石川県七尾市（金沢大学との連携による認知症早期発見、予防、地域包括支援）、先端医学薬学研究センター（PET検査）、横河電機・金沢事業所（MEG検査）において指導にあたる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースで養成された人材は、認知症診療に関する世界水準の知識・技能・研究力を有し、将来、医学教育機関等のスタッフや地域における認知症診療のリーダーとしてにおいて認知症診療向上、認知症チーム医療推進に貢献する。
受入開始時期	平成２７年４月
募集人員	３名

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻、生命融合科学教育部認知・情動脳科学専攻
教育プログラム・コース名	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
対象者	医学薬学教育部生命・臨床医学専攻および生命融合科学教育部認知・情動脳科学専攻大学院生
修業年限（期間）	４年
養成すべき人材像	認知症高度診療専門医師（認知症チーム医療リーダー）
修了要件・履修方法	認知症プロフェッショナル授業科目８単位を含む３０単位以上の授業科目の履修と、認知症に関係する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	認知症プロフェッショナル授業科目＊（８単位以上取得が必須。e-learning授業やテレビカンファレンス受講による単位認定を含む） ＊認知症プロフェッショナル科目（４大学が協力して設置） ４月以降認プロホームページでご案内いたします。 ４大学合同カンファレンス、当プログラム公認の地域における研究会等への出席、CPCへの出席を含む。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	認知症の臨床研究等に精通した専門医を育成する。多職種連携教育を推進し、チーム医療の中心となる人材を育成する。
指導体制	認知症専門家であるスタッフ等が、認知症の臨床、基礎、研究について直接指導する。具体的には富山大学の医師を中心に、当地域の認知症疾患医療センターである谷野呉山病院、魚津緑ヶ丘病院および国立病院機構・北陸病院とも連携して指導にあたる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	認知症診療・教育・研究の中心となって、リーダーとして認知症医療・医学の質の向上に貢献する。
受入開始時期	平成２７年４月
募集人員	１名

大学名等	福井大学大学院医学系研究科先端応用医学専攻
教育プログラム・コース名	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
対象者	医学系研究科先端応用医学専攻大学院生
修業年限（期間）	４年
養成すべき人材像	認知症診療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、本学の特色を活かしたＰＥＴ、ＭＲＩの機能画像診断を用いた卓越した臨床研究活動が可能な医師。
修了要件・履修方法	認知症プロフェッショナル授業科目８単位を含む３０単位以上の授業科目の履修と、認知症に関係する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	認知症プロフェッショナル授業科目＊（８単位以上取得が必須。e-learning授業やテレビカンファレンス受講による単位認定を含む） ＊認知症プロフェッショナル科目（４大学が協力して設置） ４月以降認プロホームページでご案内いたします。 ４大学合同カンファレンス、当プログラム公認の地域における研究会等への出席、CPCへの出席を含む。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	北陸認知症プロ養成プログラム・北陸認知症プロチーム養成基盤形成プランの科目（以下、北陸認プロ科目）を履修すると共に、本学医科学専攻の機能画像医学部門（高エネルギー医学研究センター担当）の科目を履修することにより、認知症画像診断の最先端の知識・技能を修得することを特色とする。
指導体制	大学院教員を中心とした直接指導、テレビカンファレンス等による広汎な研修を組み合わせた指導体制をとる
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	認知症診療・研究のリーダーとなる卓越した認知症専門医師が育成され、アカデミアや中核医療機関のスタッフとして活躍する。
受入開始時期	平成２７年４月
募集人員	２名

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻
教育プログラム・コース名	認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）
対象者	医学研究科生命医科学専攻大学院生
修業年限（期間）	４年
養成すべき人材像	「認知症患者の視点」に立った「視野の広い、且つ高い品格」のある「認知症医療」を担うリーダーとなる専門医師を養成する。
修了要件・履修方法	認知症プロフェッショナル授業科目８単位を含む３０単位以上の授業科目の履修と、認知症に関係する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	認知症プロフェッショナル授業科目＊（８単位以上取得が必須。e-learning授業やテレビカンファレンス受講による単位認定を含む） ＊認知症プロフェッショナル科目（４大学が協力して設置） ４月以降認プロホームページでご案内いたします。 ４大学合同カンファレンス、当プログラム公認の地域における研究会等への出席、CPCへの出席を含む。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	高い臨床能力と研究能力を併せ持つ認知症専門医養成のための融合型教育システムの構築を特色とする。
指導体制	精神科、神経内科、高齢医学科の３科に所属するスタッフが、それぞれの専門性を活かした指導体制をとる。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域における高度の知識・技能を有する専門医師として、全人的認知症医療を行い、認知症の早期発見・都市部の専門病院との地域連携を促進する医師として活躍する。
受入開始時期	平成２７年４月
募集人員	3名

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳医科学専攻
教育プログラム・コース名	地域認知症専門医師研修コース（インテンシブ）
対象者	地域医療機関で認知症医療に携わる医師及び地域医療機関で認知症医療に携わることを志望する医師
修業年限（期間）	１年（延長可）
養成すべき人材像	地域における認知症診療について病病連携、病診連携ができる優れた認知症診療能力を有する医師（認知症診療推進病院・協力病院・その他の病院・診療所に勤務する医師）
修了要件・履修方法	1. 各地域の連携地域医療機関での認知症診療を必須とする。 2. 認知症プロフェッショナル科目4単位以上の取得（4大学合同症例カンファレンス、e-learning授業、当プログラム公認の研究会等への参加による単位を含む）。
履修科目等	選択科目：認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）のうち4単位以上を履修する。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	認知症疾患の病態・神経病理、認知症診断学、放射線・核医学、治療薬、BPSD治療、地域包括支援・ケアに関して、e-learningクラウド等を利用して自己学習を行うと共に、各大学とのテレビ会議システムへの出席による演習を行う。また適宜、講師の派遣による出張演習も行う。
指導体制	大学および連携機関に所属する認知症の各領域のエキスパートであるスタッフ（本科コースの指導体制を参照）が、認知症とその原因疾患の診断・治療について、e-learningやテレビカンファレンス等を活用して幅広く能率的に指導する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースを修了した医師は、認知症について水準以上の知識・技能を有する医師として地域医療機関で活躍し、地域における認知症診療の均てん化、適切な連携に基づく病院機能分担の促進に貢献する。
受入開始時期	平成２７年４月
募集人員	３名

大学名等	富山大学大学院医学薬学教育部生命・臨床医学専攻、生命融合科学教育部認知・情動脳科学専攻
教育プログラム・コース名	地域認知症専門医師研修コース(インテンシブ)
対象者	地域医療機関で認知症医療に携わる医師及び地域医療機関で認知症医療に携わることを志望する医師
修業年限（期間）	１年（延長可）
養成すべき人材像	地域医療機関などで認知症医療に携わる医師が、より専門性の高い教育をうけることにより、地域認知症医療の中心的役割を果たす。
修了要件・履修方法	1. 各地域の連携地域医療機関での認知症診療を必須とする。 2. 認知症プロフェッショナル科目4単位以上の取得（4大学合同症例カンファレンス、e-learning授業、当プログラム公認の研究会等への参加による単位を含む）。
履修科目等	選択科目：認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）のうち４単位以上を履修する。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	高齢化が進む過疎地域の医療機関に勤務する医師にも受講を容易にするためのシステムを構築し、能率よく認知症に関する適切な知識や技能を身につけることが可能にする。
指導体制	大学や地域医療機関等の認知症エキスパート医師による直接指導、e-learningおよびテレビ会議システム等を通じた指導を併用する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース修了により、地域における地域全体の認知症医療の質の向上と均てん化をはかるとともに、認知症医療人の地域への定着を推進する。
受入開始時期	平成２７年４月
募集人員	２名

大学名等	福井大学大学院医学系研究科先端応用医学専攻
教育プログラム・コース名	地域認知症専門医師研修コース(インテンシブ)
対象者	地域医療機関で認知症医療に携わる医師及び地域医療機関で認知症医療に携わることを志望する医師
修業年限（期間）	１年　（延長可）
養成すべき人材像	地域の病院や診療所において、高水準の認知症診療、地域連携、在宅医療等を行うことができる医師。
修了要件・履修方法	1. 各地域の連携地域医療機関での認知症診療を必須とする。 2. 認知症プロフェッショナル科目4単位以上の取得（4大学合同症例カンファレンス、e-learning授業、当プログラム公認の研究会等への参加による単位を含む）。
履修科目等	選択科目：認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）のうち4単位以上を履修する。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	認知症診療の基本から、BPSDの対策、終末期医療まで、認知症の各病期に対応した、幅広い全人的医療を習得することができる。
指導体制	認知症エキスパート医師による指導、e-learningおよびテレビ会議システム等を通じた学習を併用する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	地域において認知症の診療、地域連携、ケア等を適切に行うことのできる医師として活躍する。
受入開始時期	平成２７年４月
募集人員	５名

大学名等	金沢医科大学大学院医学研究科生命医科学専攻
教育プログラム・コース名	地域認知症専門医師養成コース(インテンシブ)
対象者	地域医療機関で認知症医療に携わる医師及び地域医療機関で認知症医療に携わることを志望する医師
修業年限（期間）	１年（延長可）
養成すべき人材像	地域医療機関で高水準の認知症診療を行うことができる医師を養成する。
修了要件・履修方法	1. 各地域の連携地域医療機関での認知症診療を必須とする。 2. 認知症プロフェッショナル科目4単位以上の取得（4大学合同症例カンファレンス、e-learning授業、当プログラム公認の研究会等への参加による単位を含む）。
履修科目等	選択科目：認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）のうち4単位以上を履修する。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	ＩＣＴの活用とスクーリングによる各特論の受講と、テレビ会議システム活用により症例検討会参加や各演習科目の履修を行い、効率的な学習を可能とする。
指導体制	認知症エキスパート医師による指導、e-learningおよびテレビ会議システム等を通じた学習を併用する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了後、大学病院等と緊密な連携をとって地域における認知症診療を向上させていくことができる「認知症プロフェッショナル医」として活躍する。
受入開始時期	平成２７年４月
募集人員	３名

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳医科学専攻 （独立行政法人国立病院機構医王病院と連携）	
教育プログラム・コース名	認知症・神経難病の臨床病理研修コース（スペシャル）	
対象者	医薬保健学総合研究科脳医科学専攻（社会人）大学院生ほか	
修業年限（期間）	１年（延長可）	
養成すべき人材像	認知症・神経難病の臨床神経病理の基礎を身につけた専門医師	
修了要件・履修方法	認知症・神経難病の臨床神経病理に関わる科目等（下記）を４単位以上の履修。	
履修科目等	認知症・神経難病の臨床病理実習：独立行政法人国立病院機構・医王病院における臨床・神経病理実習（３単位）（必修） 認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）について、4大学合同症例カンファレンス、当プログラム公認の地域での研究会等への参加、e-learning授業等に参加（１単位以上の取得を義務づける）	
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースにおいては、社会人大学院生として独立行政法人国立病院機構・医王病院における実習（臨床・神経病理研修）を義務化し、認知症の原因となる神経難病の臨床及び神経病理（分子病態を含む）を習得するために必要な教育を行う。医王病院・臨床研究部では認知症疾患を含む神経難病の剖検の実績があり、剖検率は約50%である。	
指導体制	認知症・神経難病の臨床（日本神経学会及び認知症学会の専門医）及び神経病理の専門家（日本神経病理学会の評議員で学会認定施設である金沢大学・医王病院に所属）が指導者として、直接指導にあたる。	
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	コース修了後、神経難病・認知症の臨床病理の基礎を身につけた専門家として認知症の臨床現場のリーダー（認知症・神経難病の専門医師）あるいは研究分野（大学や研究機関の研究者）として活躍する。	
受入開始時期	平成２７年４月	
募集人員	大学院生	１名
	地域医療機関等に勤務する医師	１名

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳医科学専攻	
教育プログラム・コース名	地域フィールド認知症早期発見・予防・ケア研修コース（スペシャル）	
対象者	医薬保健学総合研究科脳医科学専攻大学院生ほか	
修業年限（期間）	１年（延長可）	
養成すべき人材像	地域フィールドにおいて認知症疫学、早期発見、予防、ケア等に関する幅広い知識・技能を有する専門医師	
修了要件・履修方法	認知症疫学・予防・ケア等に関わる科目等（下記）を4単位以上履修。	
履修科目等	地域認知症疫学・予防・ケア実習（3単位）（必修） 認知症プロフェッショナル科目（『認知症チーム医療リーダー養成コース』を参照）について、4大学合同症例カンファレンス、当プログラム公認の地域での研究会等への参加、e-learning授業等に参加（１単位以上の取得を義務づける）	
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	金沢大学は七尾市との連携により七尾市中島町をフィールドとする認知症地域プロジェクト（なかじまプロジェクト）の実績があり、七尾市中島市民センターに金沢大学中島研究拠点を設置している。本コースは、中島町を地域フィールドとして認知症調査、予防、認知症ケア・包括支援等に関する実習を行う独自のプログラムである。	
指導体制	金沢大学において当該地域フィールド認知症研究を行っている教員（金沢大学革新予防医科学共同大学院において認知症先制医療学を担当予定の教員を含む）、保健師等の地域自治体職員、当該地域の医療機関スタッフ等が一体となって実習指導にあたる。	
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コースの修了者は、認知症診療ばかりでなく、地域で急増する認知症に対する対策の立案（予防介入実践、認知症になっても笑顔で暮らせる地域など）等の福幅広い領域で活躍する認知症プロフェッショナル医師となる素地をつくることができる。	
受入開始時期	平成２７年４月	
募集人員	大学院生	１名
	地域医療機関等に勤務する医師	１名

大学名等	金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳医科学専攻
教育プログラム・コース名	認知症スーパープロフェッショナル養成のための卒前・卒後一貫教育コース（スーパーコース）
対象者	金沢大学医学類学生～医薬保健学総合研究科脳医科学専攻大学院生の一貫コース
修業年限（期間）	４年（医学類在学）＋４年（大学院在学）
養成すべき人材像	高度の認知症診療力ばかりでなく、国際的に活躍できる研究能力を有する認知症専門医師
修了要件・履修方法	卒前研究（Medical Research Training（MRT)プログラム等）及び大学院課程による（MD-PhDコースを含む）。大学院では認知症プロフェッショナル授業科目１０単位を含む３０単位以上の授業科目の履修と、認知症に関係する研究論文が学位審査に合格すること。
履修科目等	卒前：MRTプログラム等における認知症関連研究（必修） 卒後：認知症プロフェッショナル授業科目＊（１０単位以上取得が必須。e-learning授業やテレビカンファレンス受講による単位認定を含む） ＊認知症プロフェッショナル科目：認知症チーム医療リーダー養成コース（本科コース）の記述を参照
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	卒前のMRTプログラム（金沢大学医学類学生のためのリサーチプログラム）やMD-PhDコースにおいて、認知症に関する研究マインドを植付け、基礎から臨床までの幅広い研究活動[試験管内研究やモデル動物を用いた基礎研究から、神経病理学的研究、臨床研究、モデル地域における疫学研究や予防介入研究（なかじまプロジェクト）]に従事し、卒後臨床研修期間中も研究を継続できる、高い認知症研究能力を有する認知症スーパープロフェッショナル医養成のための卒前・卒後一貫教育コースであり、認知症に関する高度かつ広範囲な領域をカバーする独自のプログラムである。
指導体制	大学、地域医療機関、研究機関、地域自治体等において、大学教員が中心となって、学部学生～初期研修～大学院生に渡る一貫した指導体制をとる（本科コースの指導体制を参照）。その間、海外の一流の研究者をカンファレンス等に招き、必要に応じ短期海外留学を行い、国際一流誌に論文が掲載されるよう指導する。
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	国際的に活躍する認知症専門家、研究者として、アカデミアを中心として活躍し、21世紀の超高齢化社会における認知症医療・医学を指導する立場となる。
受入開始時期	平成２７年４月
募集人員	１名

各大学事務担当

【金沢大学】
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）運営事務局
〒920-8640　石川県金沢市宝町 13 番１号　金沢大学医学類Ｂ棟２階
e-mail　ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

【富山大学】
医薬系学務課大学院教務チーム
〒930-0194　富山県富山市杉谷 2630 番地
e-mail　mpin@adm.u-toyama.ac.jp

【福井大学】
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）福井事務局
〒910-1193　福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23 番３号
e-mail　n-pro@ml.u-fukui.ac.jp

【金沢医科大学】
金沢医科大学教学課（大学院担当）
〒920−0293　石川県河北郡内灘町大学１丁目１番地
e-mail　d-gakuin@kanazawa-med.ac.jp

【資料１３】

NINPRO
文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

Hokuriku Dementia Professional
Physician Training plan

認プロの紹介
「認プロ」の概要・運営組織・役員組織についての紹介です。

一般の方へ
患者様・一般の方のための、認知症情報を発信するページです。

医療従事者の方へ
医療従事者の方のための情報や認知症治療のガイドラインはこちら。

受講者及び認プロ関係者の方へ
現在受講をされている方へのご案内と、シラバスなどはこちら。

お知らせ

MORE

2015/3/22　キックオフシンポジウムを開催します

2015/2/22　キックオフ市民公開講座を開催します

NEWS

MORE

2015/3/22　キックオフシンポジウムを開催しました

2015/2/22　キックオフ市民公開講座を開催しました

2014/12/26　第１回教務委員会を開催しました

2014/10/30　事業推進準備委員会を開催しました

メニュー

- HOME
- お知らせ
- ニュース
- 認プロ紹介
- 一般の方へ
- 医療従事者の方へ
- 受講者及び認プロ関係者の方へ
- 認プロの教育コース紹介
- 講義シラバス
- デメンシアカンファレンス
- リンク集
- お問い合わせ

金沢大学　福井大学　富山大学　金沢医科大学

e-ninpro.jp 認プロjp ラーニング Lerning System

お問い合わせ先

金沢大学医薬保健研究域医学系
北陸認プロ運営事務局
〒920-8640
金沢市宝町13番1号
TEL.076-265-2149
FAX.076-234-4208
ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

▲ページの先頭

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
Hokuriku dementia professional physician training plan

サイトマップ | ご利用にあたって

Copyright © ninpro All Rights Rserved.

【資料１４】

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

キックオフ市民公開講座

「認知症を知る・治す・防ぐ」

第1部

特別講演

「橋幸夫が語る介護・家族・人生観」

橋　幸夫氏

第2部

(1)「なぜ、今、『認プロ』なのか?」　文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム『北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）』の紹介

山田　正仁（金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科学）教授、認プロ・プロジェクトリーダー）

(2)パネルディスカッション「認知症」

司会　山田　正仁

パネリスト

鈴木　道雄	（富山大学・大学院医学薬学研究部・神経精神医学講座・教授）	(1)認知症の症状
濱野　忠則	（福井大学・内科学(2)・准教授）	(2)認知症の検査、診断
森本　茂人	（金沢医科大学・高齢医学・教授）	(3)認知症の治療
北村　立	（石川県立高松病院・院長）	(4)認知症のケア、地域サポート
小野　賢二郎	（金沢大学・神経内科・講師）	(5)新しい治療薬・予防法開発

平成27年 **2月22日（日）** 13:30開演（13:00開場）

北國新聞赤羽ホール

（石川県金沢市南町2番1号）

主　　催／北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）（金沢大学・富山大学・福井大学・金沢医科大学）

後　　援／石川県、（一財）北陸産業活性化センター 北陸ライフサイエンスクラスター、石川県医師会、金沢市医師会、北國新聞社

実施責任者／山田 正仁（金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科学）教授、認プロ・プロジェクトリーダー）

お問い合わせ先　北陸認プロ運営事務局 TEL.076-265-2149

http://www.ninpro.jp（申込書がダウンロードできます）

参加無料　要整理券

申込方法は裏面をご参照下さい

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

キックオフ市民公開講座
「認知症を知る・治す・防ぐ」

平成27年 **2月22日（日）** 13:30開演（13:00開場）

特別講演 「橋幸夫が語る介護・家族・人生観」 橋 幸夫氏

昭和18年5月3日、東京都荒川区に9人兄弟の末っ子として生まれる。1960年（昭和35年）、デビュー曲「潮来笠」で日本レコード大賞新人賞第1号受賞者となる。その年のNHK「紅白歌合戦」の出場から連続17回、計19回出場。その後は「股旅歌謡・リズム歌謡・青春歌謡」とヒットを飛ばし、昭和37年「いつでも夢を」、昭和41年「霧氷」で二度のレコード大賞受賞。現在まで発表した曲は500曲を超え、歌、映画、劇場公演、テレビドラマ、歌番組など、その芸能活動は多岐に渡り、現在までのその活躍ぶりは、正に他に類を見ない実績と実力の証（あかし）である。

しかしその本人が平成元年に、老人性認知症となった実母とのつらい体験を告白。そして橋幸夫一家の愛の物語を描いた「お母さんは宇宙人」を出版しベストセラーとなり、長寿社会に一石を投じた。またその体験を交えた講演が全国各地で好評を呼び、講演回数は現在700回を超えている。2014年には芸能生活55周年を迎え、益々新たな意欲とそのマルチな活躍ぶりを見せている。

キックオフ市民公開講座 参加申込書

聴講希望の方は、住所、氏名、電話番号、質問事項等をご記入の上、はがき、FAX、Eメールで下記事務局までお申し込みください。参加は無料となっております。是非ご参加ください。（申し込み書は認プロホームページ http://www.ninpro.jp からもダウンロードできます）

申込期限 2015年2月18日（水）必着

※お申し込み順となりますが、定員に達した場合はご参加できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■ 申込者情報［※の項目は必須項目になります］
※お送り頂いた個人情報は目的外には使用いたしません。

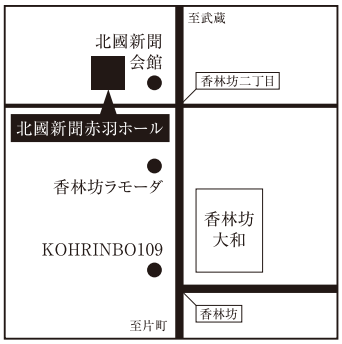
申込日（記入日）	2015年　2 月　　日		
※　ふりがな			
※　氏　名		※　参加人数	名
※　ふりがな			
※　住　所	〒		
※　TEL		FAX	
E-mail	@		

事務局使用欄	
受付番号	受領日

■ 認知症に関するご質問
当日パネスディスカッションで「一般の方からのご質問」として採用させていただく事がございます。お名前はお出ししません。

会場のご案内

北國新聞赤羽ホール
〒920-0919 石川県金沢市南町2番1号



お申し込み先

（株）ネクステージ内 認プロ事務局
〒920-0348 石川県金沢市松村7丁目135-1　担当／本吉
FAX 076-216-7100　e-mail ninpro@nex-tage.com

ごあいさつ

このたびは、文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム『北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）』のキックオフ市民公開講座「認知症を知る・治す・防ぐ」にご参加いただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。

社会の高齢化に伴い認知症の人の数は急増しております。認知症に対する取組みの中で、将来、認知症対策の担い手として活躍できる人材を養成することは最重要の課題の１つです。本年度からスタートした『認プロ』は、北陸の医科系４大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）が拠点ネットワークをつくり、地域医療機関と連携し、研究機関や自治体等の協力を得て、認知症の真のプロフェッショナル医の養成に取組みます。

この市民公開講座の第１部では、ゲストの橋幸夫さんに、ご自身の体験に基づく貴重なご講演をいただきます。第２部では、『認プロ』の紹介、認知症についてのパネルディスカッションを行います。このプログラムを通じ、皆様に認知症についての理解を深めていただき、『認プロ』を知っていただくことができれば幸いに存じます。

山田 正仁
金沢大学大学院 脳老化・神経病態学（神経内科学）教授
認プロ プロジェクトリーダー

●主催／北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）（金沢大学・富山大学・福井大学・金沢医科大学）
●後援／石川県　（一財）北陸産業活性化センター 北陸ライフサイエンスクラスター　石川県医師会　金沢市医師会　北國新聞社
●事業推進責任者／井関 尚一（金沢大学医薬保健学域長）　●プロジェクトリーダー／山田 正仁（金沢大学大学院 教授）

NINPRO
Kick-off / A lecture open to the public

キックオフ市民公開講座

「認知症を知る・治す・防ぐ」

《プログラム》February 22, 2015

● ご挨拶／13:30～

◆開会挨拶
井関尚一 | 金沢大学医薬保健学域長 認プロ 事業推進責任者

◆来賓ご挨拶
髙澤基氏 | 北國新聞社 社長

● 第一部／13:40～14:40

■特別講演…… 橋　幸夫氏

橋 幸夫が語る「介護・家族・人生観」

● 休　憩／14:40～14:55

● 第二部／14:55～15:55

[1]／14:55～15:05

■なぜ、今、『認プロ』なのか？

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
『北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）』の紹介

山田正仁 | 金沢大学大学院 脳老化・神経病態学（神経内科学）教授 認プロ プロジェクトリーダー

[2]／15:05～15:55

■パネルディスカッション「認知症」● 司会：山田正仁

パネリスト：

鈴木道雄	富山大学 神経精神医学 教授	❶「認知症の症状」
濱野忠則	福井大学 内科学（2）准教授	❷「認知症の検査、診断」
森本茂人	金沢医科大学 高齢医学 教授	❸「認知症の治療」
北村　立	石川県立高松病院 院長	❹「認知症のケア、地域サポート」
小野賢二郎	金沢大学附属病院 神経内科 講師	❺「新しい治療薬・予防法開発」

● 閉会挨拶／15:55～16:00

並木幹夫 | 金沢大学附属病院 病院長

橋　幸夫（はしゆきお）/PROFILE

●本名：橋 幸男　●昭和18年5月3日、東京都荒川区に9人兄弟の末っ子として生まれる。　●血液型：A型　●趣味：スポーツ（ゴルフ、野球、テニス、柔道、空手、ボクシング他）

1960年（昭和35年）、デビュー曲「潮来笠」で日本レコード大賞新人賞第１号受賞者となる。その年のNHK「紅白歌合戦」の出場から連続17回、計19回出場。その後は「股旅歌謡・リズム歌謡・青春歌謡」とヒットを飛ばし、昭和37年「いつでも夢を」、昭和41年「霧氷」で二度のレコード大賞受賞。現在まで発表した曲は500曲を超え、歌、映画、劇場公演、テレビドラマ、歌番組など、その芸能活動は多岐に渡り、現在までのその活躍ぶりは、正に他に類を見ない実績と実力の証（あかし）である。　しかしその本人が平成元年に、老人性認知症となった実母とのつらい体験を告白。そして橋幸夫一家の愛の物語を描いた「お母さんは宇宙人」を出版しベストセラーとなり、長寿社会に一石を投じた。またその体験を交えた講演が全国各地で好評を呼び、講演回数は現在700回を超えている。

また、社会活動も精力的に行い、「佐賀吉野ヶ里大使」「青森ねぶた観光大使」「日本介助犬サポート大使」など8つの大使に任命、2012年には茨城県日立市立「吉田正音楽記念館」の名誉館長に就任など、芸能界のみならず文化人としても多大な社会貢献を行なっている。

現在TBSラジオにて毎週日曜に「橋幸夫の地球楽団」レギュラー放送中、2013年に以前ラジオのゲストとして出演した、さだまさしさん作詞作曲による新曲「夢の轍」を発表、2014年には芸能生活55周年を迎え、益々新たな意欲とそのマルチな活躍ぶりを見せている。

北國新聞

2015年（平成27年）1月29日（木曜日） 石川政治

社説

「認プロ」を北陸の推進力に

認知症国家戦略

政府が決めた省庁横断の認知症国家戦略（新オレンジプラン）は、認知症になっても安心して地域で暮らせる環境を早急に整える必要性を指摘した。その地域ネットワークの要に位置づけられたのは、高度な知識、技術をもつ認知症専門医である。

北陸では金大、金沢医科大、富大、福井大の4医系大学が、地域の医療機関や自治体、介護事業者などと連携する「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン」（認プロ）が2月にキックオフ市民公開講座を開いて始動する。

新年度からは認知症のチーム医療のリーダー育成や地域の医療機関向けの研修など4つの養成コースが始まる。認知症に通じた人材の養成は、国家戦略に沿う時宜を得た取り組みといえる。大学連携がうまく機能すれば、「認プロ」は北陸で認知症対策を広げる推進力になるはずである。

厚生労働省研究班の推計では、団塊の世代がすべて75歳以上となる2025年には、認知症の高齢者が700万人前後に達し、65歳以上の5人に1人に増える。いまや誰もが無関心でいられない身近な病気が認知症である。

認知症のメカニズムはまだ解明されず、根本治療薬もない。医系大学は患者の「最後の砦」といわれ、がんや難治性疾患などの高度医療を中心に扱ってきたが、認知症もまた、大学が総力を結集して取り組む国民的なテーマである。

石川県では、認知症患者やその家族を支える認知症サポーターはすでに4万人を超えた。その一方で、金大によると、日本認知症学会が認定する専門医は県内でわずか15人しかいない。認知症患者の急増ぶりを考えれば、専門医は絶対的に不足している。

認知症国家戦略の7つの柱の1番目は「認知症の理解を深めるための普及・啓発の推進」である。「認プロ」の取り組みも大学や医療分野の枠にとどめず、プロジェクトの意義や目的、進捗状況を積極的に発信してほしい。

大学側の使命感や地域貢献への強い思いが伝われば、認知症に対する予防や早期発見の意識も確実に高まっていくだろう。

2015.1.29

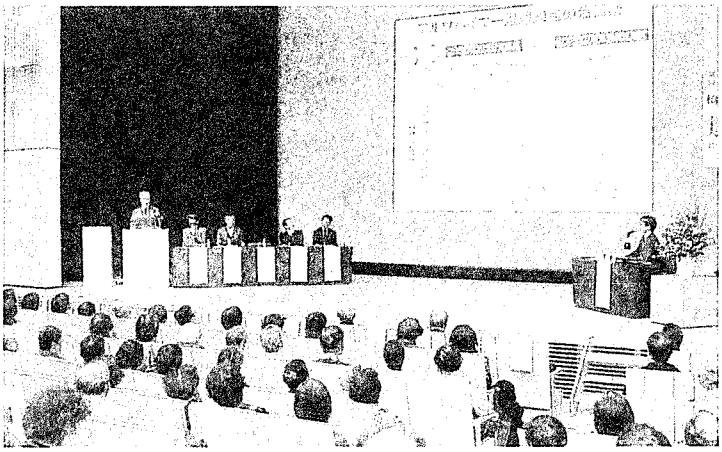
２０１５年２月２３日（月曜日）
第3種郵便物認可　北國新聞

北陸から「認プロ」発信

金沢でキックオフ市民講座

橋幸夫さん介護体験語る

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）のキックオフ市民公開講座「認知症を知る、治す、防ぐ。」（北國新聞社後援）は22日、金沢市の北國新聞赤羽ホールで開かれた。歌手の橋幸夫さんが母の介護体験を語ったほか、専門医のパネルトークが行われ、参加者約500人は認知症を取り巻く諸課題や、全国に先駆けてプロの専門医を育成する北陸発の取り組みなどに理解を深めた。



認知症診療の最前線に理解を深める参加者＝北國新聞赤羽ホール

認知症専門医を養成

「認プロ」では、金大を中核拠点に、富大、福井大、金沢医科大がネットワークをつくり、地域医療機関や自治体、企業、研究機関などと連携して、高度な認知症診療ができる専門医の育成を目指す。

開幕に先立ち、「認プロ」事業推進責任者の井関尚一金大医薬保健学域長が「認知症に悩む方、不安を持つ方が病気を正しく理解し、共生していく方法を見いだす機会になるよう期待する」と述べ、高澤基北國新聞社社長が「皆さんの『伴走者』として寄り添い、新聞で認知症のいろいろな情報を伝えていきたい」とあいさつした。

母の介護体験を語る橋さん

特別講演「橋幸夫が語る『介護・家族・人生観』」では、妄想や幻覚など認知症の症状が現れた実母と暮らすうちに体得した介護のノウハウを、橋さんがユーモアを交えて紹介した。

俳徊を繰り返す母が、実は自分が汚した下着を公園のごみ箱に捨てに行っていたと気付いた橋さんは「泣けました。幾つになってもおふくろは女性だった」と感極まった様子で語った。

「認知症について不見識だと見当違いな介護をしてしまう」とも指摘し、患者の思いをくんでいく大切さを強調した。

後半は「認プロ」プロジェクトリーダーの山田正仁金大大学院教授が、養成プランの概要について紹介した。続くパネルトークでは、認プロに携わる鈴木道雄富大教授、濱野忠則福井大准教授、森本茂人金沢医科大教授、北村立石川県立高松病院長、小野賢二郎金大附属病院神経内科講師が、認知症の検査や地域サポート、治療薬開発の取り組みなどについて説明し、参加者からの質問にも答えた。並木幹夫金大附属病院長が閉会のあいさつを述べた。

認知症を知る、治す、防ぐ。 キックオフ市民公開講座

北國新聞　２０１５年３月２２日（日曜日）

主催／北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン〈認プロ〉（金沢大学・富山大学・福井大学・金沢医科大学）　後援／石川県、（一財）北陸産業活性化センター 北陸ライフサイエンスクラスター、石川県医師会、金沢市医師会、北國新聞社

金沢大学と富山大学、福井大学、金沢医科大学が昨年、共同申請し、文部科学省の課題解決型高度医療人材養成プログラムに採択された「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン」〈認プロ〉による、キックオフ市民公開講座「認知症を知る、治す、防ぐ。」はこのほど、金沢市の北國新聞赤羽ホールで開かれました。認知症となった母親の介護体験を持つ歌手の橋幸夫さんが、体験を基に認知症患者との接し方について講演したほか、専門医が認知症に関する最新状況を紹介しました。

開会あいさつ

金大医薬保健学域長で認プロ事業推進責任者の井関尚一教授が開会あいさつで、「認知症を身近なものと感じていただき、病気と共生していくことをご理解いただきたい」と述べました。

閉会あいさつ

金大附属病院の並木幹夫院長は閉会あいさつで「認知症は早期発見が大事です。ご家族や住民がこの病気を十分理解できるよう、広報活動にも力を入れ、地域医療の向上に貢献します」と述べました。

始まりは病気の理解から

〔第一部〕特別講演 橋幸夫が語る「介護・家族・人生観」

病の母が教訓をくれた

歌手 橋　幸夫氏

今から30年以上前、私の母が認知症、当時は老人性痴呆症と言われていた病にかかりました。そのことで私や家族にもたらされた介護体験は私の人生を変え、大きな教訓を与えたとつくづく感じます。

認知症の方を介護する立場にある人は、何よりも「認知症とはどういう病気か」を学ぶことが必要です。これが足りないと患者さんに反対の、あるいは見当違いの対応をしてしまいます。例えば食事で、娘さんが一生懸命作った料理なのに、認知症の親は「あらやだ、また同じものが出てる」と嫌みを言ったり、自分の食べたくないものを隣の人のお椀に入れたりします。それで親子ゲンカになったり、あるいは「何でこんなことも出来ないの」と言うんだろう。情けない、悔しい」と親を責めたりするようになってしまいます。

この原因は不認識です。認知症という病気でそうなっているんだと、介護する側が認識していれば、そんなことにはならないですよ。家族は一番、見守る時間が長いですから、認知症にはこういう症状があって、こんなことを言う、こんなこともやらかすということを最低限でも知っておくと全然違います。食事のときも「食べなさい！」と言うより、「今はこれを置いておきましょう」と、相手を肯定することから入れば親切な言葉に聞こえますし、本人もムキになることはないです。

年長者を尊敬しよう

私は今年、デビュー55周年です。こんなに長く芸能活動を続けてきたきっかけは、一にも二にも、母が歌の勉強を勧めてくれたからであり、母の思いがあったればこそと、つくづく思います。

母の病気によって、私の人生観で何が一番変わったかというと、私より先輩、年上の方は無条件で尊敬しよう、という意識を持つようになったことです。年齢は絶対に追い越せないわけですし、その隔たりを良い意味で受け入れることが出来れば、尊敬の念を持つことはできる。決して間違ったことではない。

お年寄りを無条件で尊敬し、生きているということは、それだけですごいと、みんなが真心からそう感じることができる社会を作っていけるかどうか、私たち1人1人の責任だと思います。

4大学の連携で人材養成

〈「認プロ」プロジェクトリーダーである金大大学院脳老化・神経病態学（神経内科学）の山田正仁教授が「認プロ」の概要を紹介した後、北陸3県の専門医によるパネルディスカッションで取り組みなどを報告しました〉

〔第二部〕講演「なぜ、今、『認プロ』なのか？」&パネルディスカッション

認知症患者の数は、年齢が5歳増えると倍になると言われています。日本は今後、認知症の方が増えてきますから、それに対応できる医療や介護にかかわる人材を育成することが最重要課題となります。

そこで私たちは、認知症のプロフェッショナル医を育てようと、この「認プロ」をスタートさせました。北陸の4つの医科系大学を拠点とするネットワークを作り、地域で認知症医療に取り組む医療機関と密接に連携し、さらに研究機関や自治体の協力を得ながら、プロを養成していく計画です。

山田 正仁氏

認知症の医療は医師だけではできません。認プロも医師だけ、あるいは医療関係者だけを養成すればいいのではありません。地域で認知症の人や家族に幅広い支援を行う看護、介護、リハビリ、さまざまな職種の方と連携し、未来の医療を創造する研究力を育てていきたいと思います。

行動・心理面に注意
認知症の症状

鈴木　道雄氏
富山大学神経精神医学教授

認知症の症状の約6割を占めるアルツハイマー型認知症の症状は、「中核症状」と「行動・心理症状」の2つに分けられます。

中核症状とは、脳の働きが低下することによっておこる認知能力の障害で、記憶障害、見当識障害などがあります。一方、行動・心理症状は患者の行動・心理面に現れる症状をまとめて呼ぶもので、幻覚、妄想、暴力・暴言などです。介護の立場からは問題になる場合も少なくありません。

治療で良くなる症例も
認知症の検査、診断

濱野　忠則氏
福井大学内科学(2)
准教授

認知症の検査、診断にはスクリーニング（選別）テスト、血液検査、画像診断などが用いられます。血液検査では肝機能、腎機能や甲状腺機能低下症、ビタミン欠乏の有無を調べます。血液検査で異常が見つかる場合、治療で良くなる可能性も十分あるということです。

画像検査ではMRI、CTで、脳に血の塊ができる慢性硬膜下血腫や正常圧水頭症がないかを見ます。これらも手術で良くなることがありますから、早期の受診が重要です。

生活習慣病も悪化要因
認知症の治療

森本　茂人氏
金沢医科大学高齢医学教授

アルツハイマー型認知症は、原因物質であるアミロイドベータ（Aβ）やタウというタンパクが脳にたまり、海馬と呼ばれる部分が萎縮することで発症します。これら物質のたまり方が、中年期に高血圧や糖尿病といった生活習慣病を患っていると、早くなることがわかってきました。

海馬の萎縮を防ぐには、野菜を食べ、運動をしっかりすること、さらに歌を歌ったりおしゃべりしたり、活字に親しむことも有効です。

家族も支える対象に
認知症のケア、地域サポート

北村　立氏
石川県立高松病院院長

認知症の人は、本当はできるのにさせてもらえない、ということが結構あります。例えば、鍋を火にかけたことをすぐ忘れるから、料理をさせられない、といったことです。我々はこういった部分をサポートしようとしています。

高松病院ではいろんな職種の人が、それぞれの専門分野で認知症にかかわり、認知症の人だけでなく、家族も支援の対象と考えることを地域サポートの要点と考え、支援の体制を作ろうとしているところです。

臨床治験が現在進行中
新しい治療薬・予防法開発

小野賢二郎氏
金沢大学附属病院
神経内科講師

Aβは、脳の中で凝集してオリゴマーという形になり、毒性を及ぼします。試験管レベルの研究で、Aβにフェノール化合物の一種を加えると、オリゴマーになる過程が抑制されることが分かりました。

また、マウスによる実験においても、フェノール化合物を含むえさを与えたマウスの脳からは、オリゴマーが減っていることが分かりました。現在当院にて、この結果に基づくフェノール化合物の臨床治験が行われています。

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
第１回運営協議会議事概要

日時：平成２７年3月２２日（日）１１：００～１１：５０
場所：ホテル日航金沢　３階 孔雀の間

運営協議会委員
（出席）：井関 尚一（金沢大学医薬保健学域長、認プロ 事業推進責任者）
山田 正仁（金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科学）教授
認プロ プロジェクトリーダー）
鈴木 道雄（富山大学大学院神経精神医学 教授）
田中 耕太郎（富山大学附属病院神経内科 教授）
東間 正人（福井大学医学部病態制御医学精神医学 准教授、和田有司病院長 代理）
濱野 忠則（福井大学医学部病態制御医学内科学（２）准教授）
松井　真（金沢医科大学神経内科学 教授）
松成　一朗（財団法人先端医学薬学研究センター）
石田 千穂（国立病院機構医王病院 副院長　駒井 清暢 代理）
坂本 宏（国立病院機構北陸病院 院長）
伊藤 達彦（福井県立すこやかシルバー病院 院長）
木村 慎吾（石川県健康福祉部 次長　菊地修一　代理）
櫻田 惣太郎（富山県厚生部 次長　井内努　代理）
北 慶一（福井県健康福祉部 企画幹）
洞庭 賢一（公益社団法人石川県医師会 理事）
渡辺 多恵（公益社団法人富山県医師会 理事）
（欠席）：山崎 光悦（金沢大学学長、認プロ 事業推進代表者）
三邉 義雄（金沢大学大学院脳情報病態学 教授）
森本 茂人（金沢医科大学高齢医学 教授）
川﨑 康弘（金沢医科大学精神神経科学 教授）
北村 立（石川県立高松病院 院長）
石倉 直美（医療法人社団和敬会谷野呉山病院 精神保健福祉士）
葛野 洋一（医療法人社団弘仁会魚津緑ヶ丘病院 院長）
池端 幸彦（一般社団法人福井県医師会 副会長）

事務局 ：小野 賢二郎（金沢大学附属病院神経内科 講師）
堤口 英隆（金沢大学医薬保健系事務部 部長）
北村 浩一（金沢大学医薬保健系事務部 学生課長）
杉原 一良（金沢医科大学教学課 大学院担当課長）
諏訪 康重（福井大学松岡キャンパス学務室 大学院係長）
出口 雅弘（福井大学松岡キャンパス総務室 総務・企画係長）
長谷川 恵（福井大学 認プロ事務局）
穴倉 千恵（金沢大学医薬保健系事務部学生課 専門職員）

オブザーバー：辻 俊之（福井県健康福祉部長寿福祉課総括主任）

① 開会の挨拶

山田正仁プロジェクトリーダーから開会の挨拶があった。

② 挨拶

井関尚一事業推進責任者から挨拶があった。

③ 運営協議会委員の紹介

事務局から出席委員の紹介があった。

④ 平成２６年度事業内容と平成２７年度事業計画の説明

山田正仁プロジェクトリーダーから、平成２６年度の事業内容及び平成２７年度事業計画について、スライドおよび配布資料を用いて説明があった。

⑤ 質疑応答、意見交換

次のとおり質疑・応答があった。

【田中耕太郎委員】

デメンシアカンファレンスは各大学の持ち回りで行われるのか。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

デメンシアカンファレンスは４大学の持ち回りで順番に行う予定で、４月は金沢大学主催で実施予定である。他の参加施設より症例検討の希望があった場合は主催施設として随時予定に組み込んでいく。デメンシアカンファレンスの運用マニュアルを近日中に送付する予定である。

【田中耕太郎委員】

デメンシアカンファレンスはがんプロのテレビ会議システムを用いるのか。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

セキュリティを確保したテレビ会議システムを用いて行う。事前にテレビ会議を設置する施設で動作確認を行う予定である。

【木村慎吾委員】

このような認知症専門医の養成プログラムができたのは素晴らしいと考える。早速、今年度から履修者があるのか。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

平成２７年度募集要項が出来上がり、平成27年度の募集を始めたところである。

【坂本宏委員】

実習というのは、どのようなものを指すのでしょうか。他の病院へいって学ぶという意味でしょうか。

【山田正仁プロジェクトリーダー】
　特定の領域を学ぶ実習である。地域実習では認知症疫学・予防・ケアを学ぶ。臨床病理実習では，認知症の脳をみて病理を学ぶ。現在のところ，特定の病院へ行って学ぶという実習はない。

【濱野忠則委員】
　インテンシブコースの募集人員を少なくすることは可能か。
【山田正仁プロジェクトリーダー】
　平成２７年度募集要項が既に公表されているので来年度の変更は難しい。

【田中耕太郎委員】
　インテンシブコースには、関連病院の医局員は入れるのか。
【山田正仁プロジェクトリーダー】
　入ることができる。

【鈴木道雄委員】
　インテンシブコースの手続きは、どのようにするのか。
【山田正仁プロジェクトリーダー】
　インテンシブコースは、受講していただき、終了後、修了書を出す。受講は無料である。

【洞庭賢一委員】
　認知症の診療はまだ十分とはいえないので、石川県医師会としてどのように関わっていくことができるか。
【山田正仁プロジェクトリーダー】
　研修のためのインテンシブコースが特に関係すると思われる。医師会とも相談しながら今後の連携の仕方を検討していく。

【坂本宏委員】
　e-learning の授業は、多くの方々に広く閲覧できるようにならないか。
【山田正仁プロジェクトリーダー】
　現在のところ、コースの受講者の方のみ閲覧できるシステムである。
　今後、著作権の問題等を含め、広く閲覧できるかを検討する。

【田中耕太郎委員】
　ほかの職種の方、例えば看護師さんなども e-learning の授業閲覧できるようにならないか。
【山田正仁プロジェクトリーダー】
　現在のコースは医師を対象としている。他職種の方々にも対象を拡げていきたいが、今後の課題である。

【伊藤達彦委員】

ケアや介護に関することは大事なので、考えていっていただきたい。

【山田正仁プロジェクトリーダー】

認プロ科目のケア・リハビリ・地域支援で８コマの授業を予定している。デメンシアカンファレンスでもケアや介護の問題を取り上げたい。

⑥ 閉会の挨拶

山田正仁プロジェクトリーダーから閉会の挨拶があった。

【資料１７】

NINPRO

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
平成26年度事業内容説明と平成27年度事業実施計画

プロジェクトリーダー
山田正仁

平成27(2015)年3月22日（日）

平成26年5月2日

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の公募

平成26年5月2日

大学・大学病院を通じて、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成するため特色ある取組を公募します。

1.事業目的

本事業（平成26年度予算額：10億円）では、我が国が抱える医療現場の諸課題等に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成するため、大学自らが体系立てられた特色ある教育プログラム・コースを構築し、全国に普及させ得るべく、これからの時代に応じた医療人材の養成に取り組む事業を選定し支援します。

NINPRO

平成26年5月2日

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の公募

大学・大学病院を通じて、健康長寿社会
するため特色ある取組を公募します。

1.事業目的

本事業（平成26年度予算額：10億円）
に対して、科学的根拠に基づいた医療が
る優れた医療人材を養成するため、大学
ラム・コースを構築し、全国に普及させ
材の養成に取り組む事業を選定し支援し

2.事業概要

○ 選定件数：26件

取組1　医師・歯科医師を対象とした人材養成（14件）

1.横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成（6件）

- 医療の質管理領域（医療安全・感染制御）
- 災害医療領域
- 臨床医学教育・研究領域

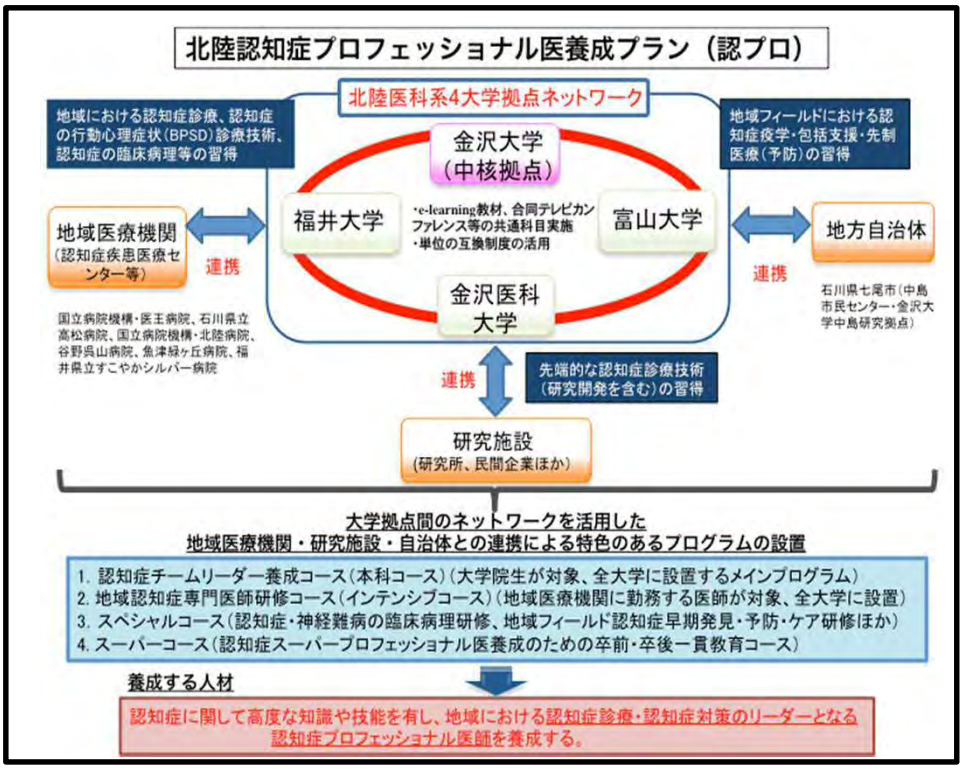
2.特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成（6件）

- 難治性疾患診断・治療領域（臨床病理を含む）
- 高難度手術領域
- 小児周産期領域

3.健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成（2件）

NINPRO

平成26年6月2日
申請書提出



NINPRO

平成26年7月28日

報道発表

文部科学省 MINISTRY OF EDUCATION, CULTURE, SPORTS, SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

平成２６年７月２８日

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の選定結果

本年度から開始する「課題解決型高度医療人材養成プログラム」について、別紙のとおり選定事業を２６件決定しました。

３．選定結果（詳細は別紙のとおり）

【取組１】医師・歯科医師を対象とした人材養成　１４件（申請件数　９９件）

【取組２】看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成
１２件（申請件数１３６件）

NINPRO

平成26年7月28日

報道発表

「課題解決型高

本年度から開始する「課題
とおり選定事業を２６件決定

３．選定結果（詳細は別紙のと
【取組１】医師・歯科医師を
【取組２】看護師・薬剤師等

課題解決型高度医療人材養成プログラム　選定結果一覧

【取組1：医師・歯科医師を対象とした人材養成】

〔1－(1)：横断的な診療力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成〕

①医療の質管理領域（医療安全・感染制御）　申請件数：26件・選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	東京医科歯科大学		PDCA医療クオリティマネージャー養成
2	国	名古屋大学		明日の医療の質向上をリードする医師養成

②災害医療領域　申請件数：19件　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	新潟大学		発災～復興まで支援する災害医療人材の養成
2	私	近畿大学	京都大学、大阪市立大学、関西医科大学、旭川医科大学	災害医療のメディカルディレクター養成

③臨床医学教育・研究領域　申請件数：15件　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	京都大学		京大で臨床研究力／医学教育力を強化する！
2	国	琉球大学		臨床研究マネジメント人材育成

〔1－(2)：特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成〕

①難治性疾患診断・治療領域（臨床病理を含む）　申請件数：12件　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	金沢大学	富山大学、福井大学、金沢医科大学	北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン
2	国	信州大学	札幌医科大学、千葉大学、東京女子医科大学、京都大学、鳥取大学	難病克服！次世代スーパードクターの育成

②高難度手術領域　申請件数：12件　選定件数2件

No	区分	申請担当大学名	連携大学名	事業名
1	国	熊本大学	長崎大学、岡山大学、金沢大学、新潟大学、千葉大学、京都大学	国内初の、肝臓移植を担う高度医療人養成
2	私	慶應義塾大学	東京医科大学、岩手医科大学	領域横断的内視鏡手術エキスパート育成事業

NINPRO

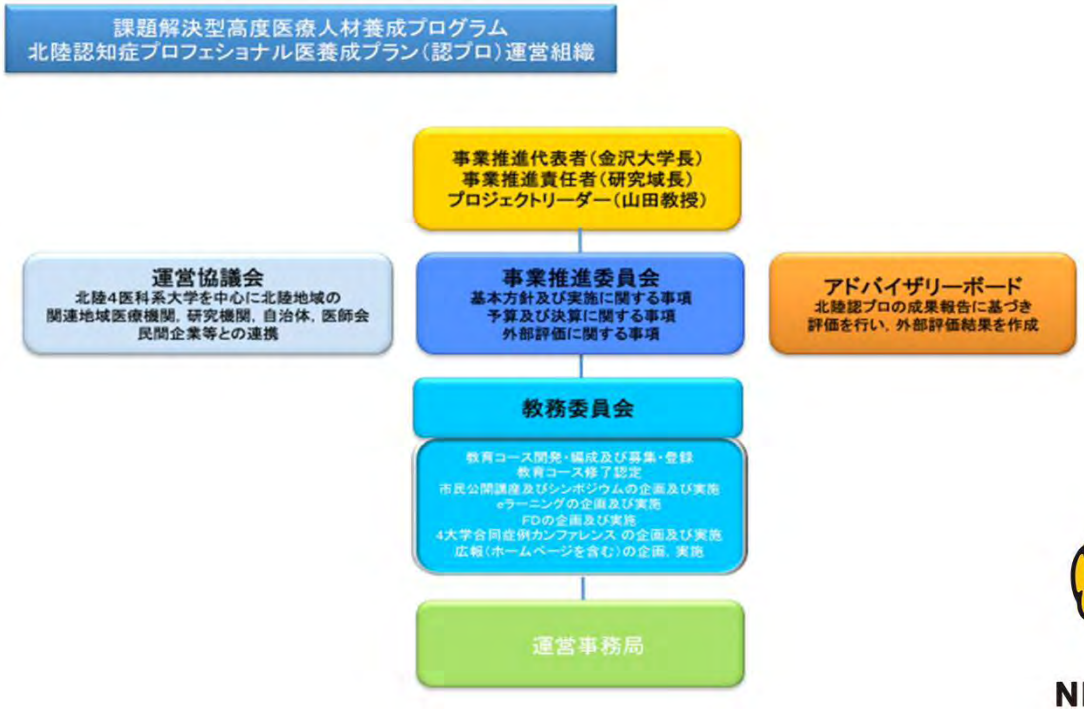
平成26年10月30日

事業推進準備委員会開催（金沢大学附属病院CPDセンター）

事業推進準備委員会を開催し、事業体制の構築を行った。そこでの申し合わせに基づいて運営組織として事業推進委員会、教務委員会、運営協議委員会、アドバイザリーボードを発足した。

NINPRO

認プロ運営組織図



NINPRO

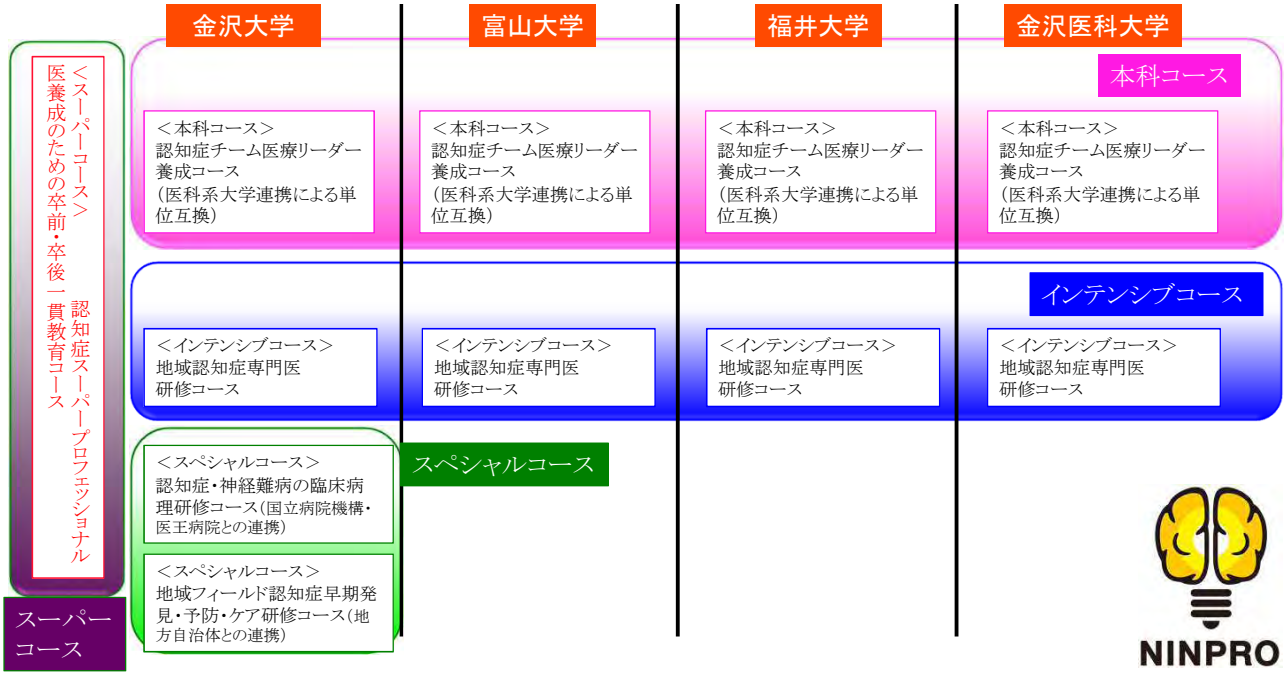
平成26年12月26日

第１回教務委員会開催（金沢大学附属病院CPDセンター）

第１回教務委員会を開催し、平成２７年度からのコース設置に向け、教育コース及びプロフェッショナル科目（e-learning）を決定した。

NINPRO

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン：プログラム実施体制（コース）



NINPRO

認プロ科目（1）

【講義】9科目10単位

1科目は、e-learning教材（5～6コマ）＋（認知症関連）学会orセミナー参加or Web カンファレンス受講（1～2コマ）＋確認テスト（1コマ）からなる

1. 認知症基礎（1単位）（概要と疫学、病理、生化学（神経伝達物質、蛋白化学）、分子遺伝学等）（8コマ）
2. 認知症症候学（1単位）（中核症状、BPSD、神経心理）（8コマ）
3. 認知症検査・診断学（1単位）（画像、バイオマーカー等）（8コマ）
4. 認知症治療予防学（1単位）（薬物治療総論、BPSDの治療、予防等）（8コマ）
5. 認知症ケア・リハビリ・地域支援・倫理（1単位）（8コマ）
6. 認知症各論Ⅰ（1単位）(ADやDLBといった神経変性疾患)（8コマ）
7. 認知症各論Ⅱ（1単位）（血管障害、外傷、代謝性疾患、精神疾患等）（8コマ）
8. 認知症特論（2単位）（各大学で行われている認知症関連授業科目の読み替え）（15コマ）
9. 研究倫理（CITI JAPAN）（1単位）（研究一般に関する倫理）

NINPRO

認プロ科目（2）

【演習】4科目4単位

1.認知症診断・治療学演習Ⅰ～Ⅳ（各1単位）
（デメンシアカンファレンンス(症例検討会)受講　12回／年を想定）（8コマ×4）

【実習】2科目6単位　（1科目は、3単位135時間(1単位45時間)からなる）

1.地域認知症疫学・予防・ケア実習（3単位）
2.認知症・神経難病の臨床病理実習（3単位）

NINPRO

平成27年度
教育コース
履修者募集

NINPRO

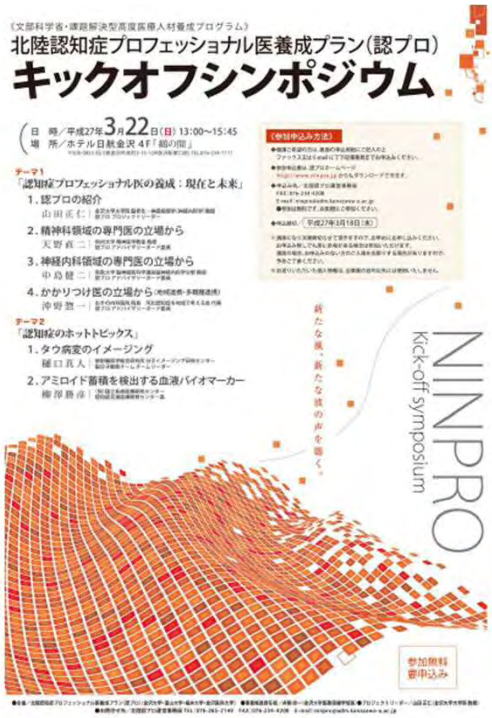
キックオフ市民公開講座開催（北國新聞赤羽ホール）

平成27年12月22日

NINPRO

キックオフシンポジウム開催（ホテル日航金沢）

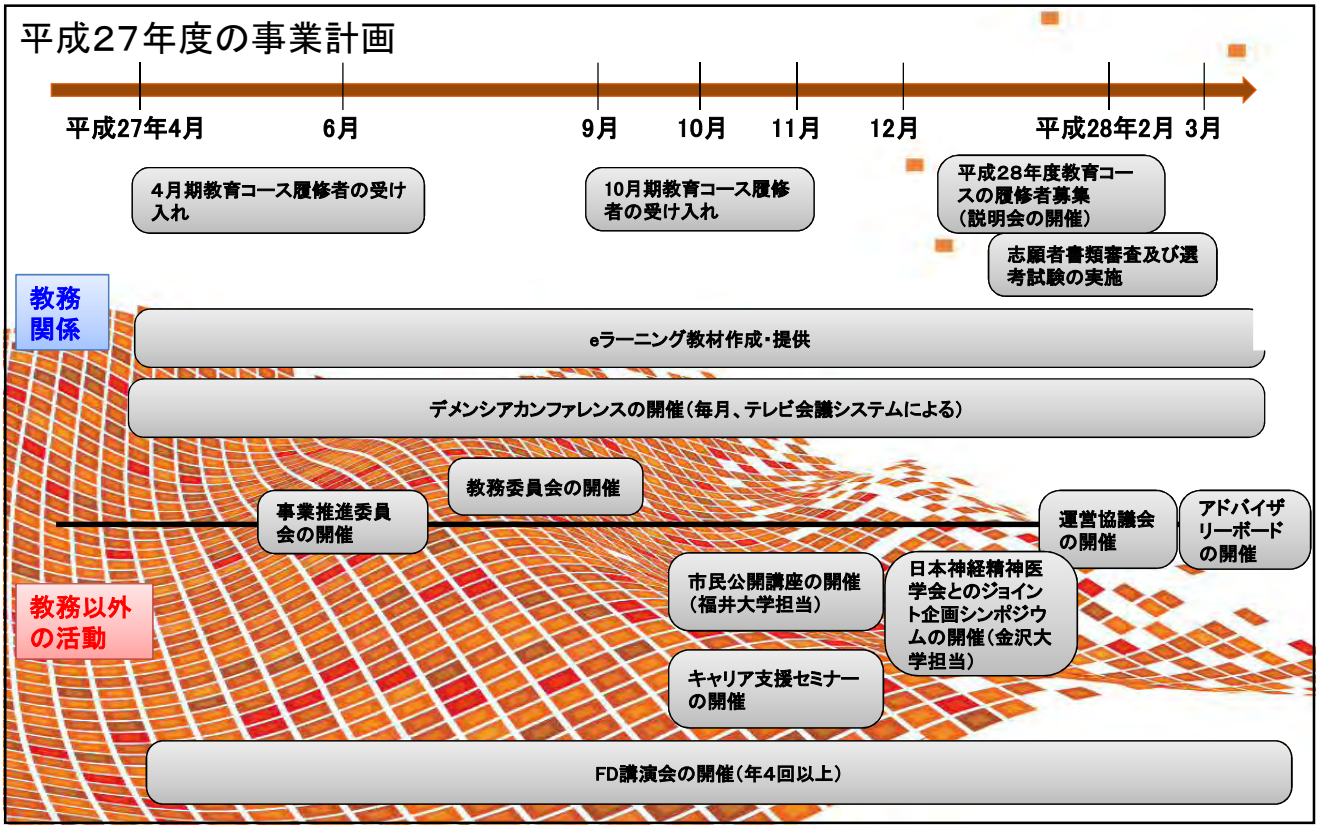
平成27年3月22日



NINPRO

（仮）

認プロホームページ
http://www.ninpro.jp


平成27年度の事業計画
平成27年4月
6月
9月
10月
11月
12月
平成28年2月
3月
4月期教育コース履修者の受け入れ
10月期教育コース履修者の受け入れ
平成28年度教育コースの履修者募集（説明会の開催）
志願者書類審査及び選考試験の実施
教務関係
eラーニング教材作成・提供
デメンシアカンファレンスの開催（毎月、テレビ会議システムによる）
教務委員会の開催
事業推進委員会の開催
運営協議会の開催
アドバイザリーボードの開催
教務以外の活動
市民公開講座の開催（福井大学担当）
日本神経精神医学会とのジョイント企画シンポジウムの開催（金沢大学担当）
キャリア支援セミナーの開催
FD講演会の開催（年4回以上）

《文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム》
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

キックオフシンポジウムプログラム

日時：平成２７年３月２２日（日）午後１時 開始
会場：ホテル日航金沢 鶴の間Ｃ室

13:00～13:05　開会挨拶　山崎 光悦　金沢大学学長
認プロ 事業推進代表者

13:05～13:10　来賓挨拶　西尾 和幸　文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室
病院第二係長

テーマ１　認知症プロフェッショナル医の養成：現在と未来（13:10～14:25）

司会　井関 尚一　金沢大学医薬保健学域長
認プロ 事業推進責任者

13:10～13:25　**１．『北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）』の紹介**
山田 正仁　金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科学）教授
認プロ プロジェクトリーダー

13:25～13:45　**２．精神科領域の専門医の立場から**
天野 直二　信州大学医学部精神医学教室 教授
認プロ アドバイザリーボード委員

13:45～14:05　**３．神経内科領域の専門医の立場から**
中島 健二　鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野 教授
認プロ アドバイザリーボード委員

14:05～14:25　**４．かかりつけ医の立場から（地域連携・多職種連携）**
沖野 惣一　おきの内科医院 院長、河北認知症を地域で考える会 代表
認プロ アドバイザリーボード委員

休　憩（14:25～14:40）

テーマ２　認知症のホットトピックス（14：40～15：40）

司会　山田 正仁　金沢大学大学院脳老化・神経病態学（神経内科学）教授
認プロ プロジェクトリーダー

14:40～15:10　**１．タウ病変のイメージング**
樋口 真人　放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター
脳分子動態チーム チームリーダー

15:10～15:40　**２．アミロイド蓄積を検出する血液バイオマーカー**
柳澤 勝彦　国立長寿医療研究センター
認知症先進医療開発センター センター長

15:40～15:45　閉会挨拶　井関 尚一　金沢大学医薬保健学域長
認プロ 事業推進責任者

《文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム》

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

キックオフシンポジウム

日　時／平成27年3月22日（日）13:00〜15:45
場　所／ホテル日航金沢 4F「鶴の間」
〒920-0853 石川県金沢市本町2-15-1(JR金沢駅東口前) TEL.076-234-1111

テーマ1
「認知症プロフェッショナル医の養成：現在と未来」

1. 認プロの紹介
山田正仁 | 金沢大学大学院 脳老化・神経病態学（神経内科学）教授
認プロ プロジェクトリーダー

2. 精神科領域の専門医の立場から
天野直二 | 信州大学 精神医学教室 教授
認プロ アドバイザリーボード委員

3. 神経内科領域の専門医の立場から
中島健二 | 鳥取大学 脳神経医科学講座脳神経内科学分野 教授
認プロ アドバイザリーボード委員

4. かかりつけ医の立場から（地域連携・多職種連携）
沖野惣一 | おきの内科医院 院長　河北認知症を地域で考える会 代表
認プロ アドバイザリーボード委員

テーマ2
「認知症のホットトピックス」

1. タウ病変のイメージング
樋口真人 | 放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター
脳分子動態チーム チームリーダー

2. アミロイド蓄積を検出する血液バイオマーカー
柳澤勝彦 | （独）国立長寿医療研究センター
認知症先進医療開発センター長

《参加申込み方法》

◆聴講ご希望の方は、申込用紙又は下記の内容を明記の上、ファックス・E-mail にて下記事務局までお申込みください。
●ご芳名　●ご芳名ふりがな　●ご所属　●連絡先ご住所
●TEL・FAX　●E-mail アドレス

◆参加申込書は、認プロホームページ
http://www.ninpro.jp からもダウンロードできます。

◆申込み先／北陸認プロ運営事務局
FAX：076-234-4208　E-mail：ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
●参加は無料です、お気軽にご参加ください。

◆申込締切／平成27年3月18日（水）

※満席になり次第締切らせて頂きますので、お早めにお申し込みください。
お申込み無しでも席に余裕がある場合は参加いただけます。
満席の場合、お申込みのない方のご入場をお断りする場合がありますので、予めご了承ください。

※お送りいただいた個人情報は、当事業の目的以外には使用いたしません。

新たな風、新たな波の声を聴く。

NINPRO Kick-off symposium

参加無料
要申込み

●主催／北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）（金沢大学・富山大学・福井大学・金沢医科大学）　●事業推進責任者／井関 尚一（金沢大学医薬保健学域長）　●プロジェクトリーダー／山田 正仁（金沢大学大学院 教授）
●お問合せ先／北陸認プロ運営事務局 TEL：076-265-2149　FAX：076-234-4208　E-mail：ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

テーマ 1-1

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
『北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）』の紹介

金沢大学大学院医薬保健学総合研究科脳老化・神経病態学（神経内科学） 教授
認プロ プロジェクトリーダー

山 田 正 仁

略　歴

昭和 55 年 3 月　東京医科歯科大学医学部卒業
昭和 59 年 3 月　東京医科歯科大学大学院医学研究科修了（神経内科学）（医学博士）
昭和 60 年 3 月　社会福祉法人浴風会病院内科 医員
昭和 63 年 7 月　カリフォルニア大学サンディエゴ校 博士研究員
平成 11 年 4 月　東京医科歯科大学大学院脳機能病態学（神経内科学）助教授
平成 12 年 1 月　金沢大学医学部神経内科学 教授

平成 26 年度から文部科学省の新規事業『課題解決型高度医療人材養成プログラム』が始まり、その中の『医師・歯科医師を対象とする人材養成』の取組の中の『特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成：難治性疾患診断・治療領域』において、『北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ)』がスタートしました。

本プランの背景には社会の高齢化に伴う認知症の人の急増があります。私達の石川県七尾市中島町における認知症地域研究（“なかじまプロジェクト”）の悉皆調査では、65 歳以上の約 30%、85 歳以上では 70%以上が認知症あるいは軽度認知障害を有しています。認知症診療のみならず、介護・福祉等、認知症に関わる全ての領域においてリーダーとして活躍できる人材の養成が急務です。認知症の専門医は非常に不足しています。最先端の知識・診療技能、地域において認知症の人や家族に対して幅広い支援ができる多職種連携力、未来の認知症医療（予防を含む）を創造する研究力を備えた医師の養成が必要です。

認プロは北陸の医科系 4 大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学）が拠点ネットワークを形成し、地域医療機関と連携し、研究機関、自治体等の協力を得て取り組みます。特色のある 4 コース（①本科コース、②インテンシブ研修コース、③スペシャル研修コース、④スーパーコース）を設置します。①の本科コースがメインプログラムで、大学院生を対象に高度の知識・技能や研究力等を有する認知症チーム医療リーダー医師の養成をめざします。②のインテンシブ研修コースは、地域における認知症診療で活躍する専門医師の研修を主目的とします。③のスペシャル研修コースでは、認知症・神経難病の臨床病理や、地域フィールドにおける認知症早期発見・予防・ケアなど、特定領域に集中した研修を行います。④のスーパーコースは医学生の時から卒前・卒後一貫教育により認知症スーパープロフェッショナル医の養成を行います。さらに、将来、医師ばかりでなく認知症に関わる様々な職種（看護、介護、リハビリ、保健など）へ対象を拡大する必要があります。

全国に先駆けて認プロが始まることは意義深く、超高齢化社会における認知症対策のプロフェショナル養成のモデル事業となることが期待されます。皆様のご指導・ご支援をよろしくお願いいたします。

テーマ 1-2

『精神科領域の専門医の立場から』

信州大学医学部精神医学教室　教授

天 野 直 二

略　歴

昭和 50 年 3 月	横浜市立大学医学部卒業
昭和 61 年 7 月～平成 6 年 5 月	神奈川県総合リハビリテーションセンター 精神神経科 医長、副部長、部長
平成 6 年 5 月～平成 12 年 7 月	東京大学医学部精神医学教室 講師、助教授
平成 12 年 8 月～平成 27 年 3 月	信州大学医学部精神医学教室 教授
平成 23 年 4 月～平成 26 年 3 月	信州大学医学部附属病院 院長

認知症を診療する専門医は、さまざまな疾患の診断と治療に精通するだけではなく、患者の生きていく環境、すなわち quality of life という側面にも長けている必要がある。今後の認知症に対する医療には、全人的かつ包括的な展開が望まれている。言い方を変えれば、医療は、介護、予防という複合的な視点を取り入れて、生活支援や福祉サービスも相互に連携しながら支えることの重要性が強調されている。

厚生労働省は、平成25年からの認知症施策推進５カ年計画「オレンジプラン」を公表した。これまでの病院・施設を中心とした認知症ケア施策をできる限り住み慣れた地域で暮らし続けられる在宅中心の認知症施策へシフトすること、そして日常生活への支援サービスを包括的に提供する体制づくりを目指している。具体的には、医療に関連する部分を取り上げてみると、認知症ケアパスの作成、早期診断･早期対応、認知症初期集中支援チームの設置、早期診断医療機関の整備、認知症の薬物治療ガイドラインの策定、退院支援・地域連携クリティカルパス、それから、とくに若年性認知症施策、新規に行われる一般病院の医療従事者への認知症の対応力向上のための研修の開催等である。そして、国を挙げての「新オレンジプラン」に発展している。

精神科領域で考えてみると、BPSD（認知症の行動障害と精神症状）を中心とした理解と対応が挙げられる。精神症状は、患者や家族との面接によって詳細に理解できる。その原点は誤認、幻覚、妄想の３つが主体であり、それ以外に睡眠障害、抑うつ気分、不安、焦燥などの症状がみられる。行動障害は、行動観察によって把握できるものであり、攻撃、喚声、不穏、焦燥、徘徊、文化的に不適切な行動、性的抑制欠如、罵り、つきまといなどがみられる。いずれにしても厄介な症候であり、介護の手を悩ませることになる。対応としては、薬物療法と非薬物療法に大別されるが、これらについては日本神経学会監修によるガイドラインがあり､標準化が進んでいる｡認知症と見間違う状態についてはより留意すべきであるし、高齢者の幻覚妄想、せん妄、うつ病についての専門的理解が必要となる。

専門医も働く施設によってその仕事の内容と質は大きく変わっている。診断が中心となる大学病院、治療とケアが中心の診療所、どちらも要請されている認知症疾患医療センターなどであるが、研修の過程では現場を知る上でいずれも体験する必要がある。さらに老年期の精神症状は状況依存性であり、環境変化や治療の場所で大きく変わりうることも念頭に置く必要があろう。

テーマ 1-3

『神経内科領域の専門医の立場から』

鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野　教授

中 島 健 二

略　歴

昭和 52 年 3 月	鳥取大学医学部卒業
昭和 56 年 3 月	鳥取大学大学院医学研究科博士課程終了
昭和 56 年 4 月	鳥取大学医学部附属病院 助手
昭和 57 年 4 月	山陰労災病院神経内科 医長
昭和 58 年 4 月	鳥取大学医学部附属病院 助手
昭和 63 年 4 月	鳥取大学医学部附属脳幹性疾患研究施設脳神経内科部門 講師
平成元年 4 月	鳥取大学医学部附属脳幹性疾患研究施設脳神経内科部門 助教授
平成 7 年 12 月	鳥取大学医学部附属脳幹性疾患研究施設脳神経内科部門 教授
平成 21 年 7 月	鳥取大学医学部脳神経医科学講座脳神経内科学分野 教授（施設改組による）

我が国は高齢社会となり、認知症者が増加しています。最近の疫学調査により、我が国における高齢者の認知症有病率が以前考えられていたよりもはるかに高いことが示され、今後も認知症者が増加していく可能性が報告されました。2025 年には約 700 万人になるとの予想も示されています。海外においても、今後、認知症者数が急速に増大していく可能性が指摘されています。一方、欧米においては、認知症者発症の減少を指摘する報告もあります。我が国においても、認知症の予防対策の充実により認知症発症が減少していくことが期待されています。認知症診療に取り組む医師は圧倒的に少なく、その養成も急務となっています。

認知症は進行性の疾患です。いくつかの治療薬が開発されていますが、まだ進行を停止させる薬剤はありません。認知症診療に取り組む医師には、種々の対応が求められます。認知症は多くの原因疾患により生じ、早期に診断して適切な指導や治療を行って早期に介入していくことが重要です。進行すると、生活障害が強くなり、治療介入の必要性がますます増大してきています。認知症の行動・心理症状（BPSD）の治療や、対応についての家族や介護者への指導も求められます。さらに、転倒・骨折、誤嚥などの合併症や生活習慣病などの、予防や治療・対応も求められます。進行期では日常生活における介助や、栄養や呼吸などの全身的な管理なども必要になってきます。認知症診療においては、常に認知症者の尊厳を支える視点を持って接することも必要ですし、認知症者のみならず介護者や家族へ対応していくことも重要です。

日本神経学会は神経内科専門医に認知症診療の知識と経験を求めています。日本認知症学会は、2006 年の日本認知症学会総会において、専門医制度の導入を決定して専門医育成に取り組んでいます。現在の日本認知症学会によって認定された認知症専門医数は 930 名（2015 年 2 月）です。予想される認知症者数 700 万人を考慮すると、認知症専門医は圧倒的に不足しており、養成を急がなければなりません。また、医師のみならず、周辺領域のプロフェッショナルを養成していくことも課題です。

多くの若い医師が認知症診療に取り組み、認知症医療が充実されていくことを期待します。

テーマ 1-4

『かかりつけ医の立場から（地域連携・多職種連携）』

おきの内科医院　院長
河北認知症を地域で考える会　代表

沖 野 惣一

略　歴

昭和 62 年 3 月	金沢大学医学部卒業
平成 11 年 3 月～平成 13 年 3 月	金沢大学神経内科 助手
平成 13 年 4 月～平成 14 年 3 月	金沢大学神経内科 講師
平成 14 年 4 月～平成 18 年 3 月	国療金沢若松病院、国立病院機構医王病院 診療部長
平成 18 年 4 月～平成 19 年 9 月	石川県立中央病院神経内科 診療部長
平成 19 年 10 月～現在	おきの内科医院 院長

認知症診療におけるかかりつけ医の役割は様々ですが、なかでも病初期と終末期の関わりが重要といえます。慢性疾患で通院する患者が認知症を発症していても、医師の方で疑わないと初期には容易に気がつきません。もの忘れを自分で言われる方はごく一部で、ときには受付事務員や看護師から教えられることもあります。一方で、早期段階での見逃しは、正常圧水頭症や慢性硬膜下血腫などの手術治療できる疾患やうつ病等の異なる治療対象の予後に影響します。そのため、わずかな言動の変化から認知症の可能性を疑う意識と技術が求められます。診断に迷うときは大学や総合病院、認知症疾患医療センター等の専門科と連携して、精査の上で治療方針を立てることとなります。

本人の ADL、IADL が自立している時期においては、家族に生活状況の変化を聞き将来的な対応を想定しますが、このような段階で家族への教育、認知症への対応の仕方を説明することも後々のためになります。

認知症が進行し介護度が高くなったときには、患者本人および介護者の生活の質をどのように保っていくかという視点が欠かせません。特に高齢者は種々の慢性疾患も合併しており、対応すべき問題が数多く存在するのが現実です。薬物療法も重要ですが、それ以上に大切なのは、最後まで本人らしく暮らし、天寿を全うするにはどうするかということです。個々の生活歴や家族状況、環境等を考慮して、医療と介護の多職種によるサポート体制を作り、そのときどきの病状に応じて柔軟に修正していくことが必要です。在宅機能を充実させるという点では、中心的役割を果たすのは医師ではなく、訪問看護師や介護支援専門員、介護スタッフです。かかりつけ医は医療において主導する立場ですが、特に高齢者においては薬物療法をできるだけシンプルにし、合併症や弊害が生じないように留意することが大切です。また、終末期まで在宅で暮らすことが望ましい場合もありますが、個々の状況によっては不適切な場合もあり、在宅にこだわりすぎないことだと思います。

現在、厚労省が進めている地域包括ケアシステムに関連して、地域自治体ごとに体制づくりが進行中です。その中で、とりわけ認知症においては地域での多職種連携が不可欠であり、日常的に顔の見えるコミュニケーションを図り、症例検討や勉強会を継続していくことで全体として対応力を高めることが望ましいと考えます。

テーマ 2-1

『タウ病変のイメージング』

放射線医学総合研究所 分子イメージング研究センター
脳分子動態チーム チームリーダー

樋 口 真 人

略　歴

平成 5 年 3 月　東北大学医学部卒業
平成 9 年 3 月　東北大学大学院医学研究科修了（医学博士）
平成 11 年 4 月　米国ペンシルバニア大学 神経変性疾患研究センター 研究員
平成 15 年 3 月　理化学研究所脳科学総合研究センター 研究員
平成 17 年 4 月　放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター チームリーダー

日本国内で急増する認知症有病者数の一因は、病的なタンパク凝集体の蓄積が加齢に伴って進行することにある。凝集体蓄積が神経細胞の変性に結びつくが、現時点では蓄積を抑制する手段がないために、アルツハイマー病に代表される神経変性型認知症の根本治療が存在しない。アルツハイマー病で蓄積する病的タンパクは、アミロイドβ（Aβ）とタウタンパクであるが、Aβを標的としたイメージング診断薬や治療薬の開発が先行し、ポジトロン断層撮影（PET）で Aβ蓄積を捉えることが可能になった。これにより、アルツハイマー病発症の 10 年以上前の時点で、Aβ蓄積が生じることが示された。一方、Aβワクチンをはじめとする抗 Aß 療法は、これまで実施された治験の半数以上がすでに中断され、どの治療法も薬事承認に至っていない。この理由として、発症後に治療するのでは「手遅れ」であるという可能性と、Aß よりもタウの蓄積が神経細胞死や症状出現・悪化と密接な結びつきを有する可能性が挙げられている。こうした経緯からタウを標的とする診断法・治療法の開発が注目されるようになった。放射線医学総合研究所でも 2005 年に分子イメージング研究センターが発足して以降、タウ病変を生体脳で可視化する PET 薬剤の開発に取り組み、アルツハイマー病患者でタウ蓄積を画像化することに成功した。タウ蓄積と Aβ蓄積の PET 画像を比較すると、Aβは発症の前段階ですでに脳の広範囲に蓄積し、その後は発症・進行に伴う変化が少ないのに対して、タウは発症前に海馬付近で蓄積が始まり、発症・進行に伴って蓄積部位が拡大することが明らかになった。また、記憶や前頭葉機能の障害が、対応する脳部位のタウ蓄積と相関することが示された。これにより、Aβよりもむしろタウの蓄積が疾患進行や症状出現と密接に相関することが実証されると共に、タウ蓄積を指標として疾患の重症度を客観的に評価したり、症状出現を予測したりできると考えられた。アルツハイマー病のみならず、家族性および孤発性の非アルツハイマー型認知症におけるタウ蓄積も PET で可視化され、脳萎縮や症状出現パターンと密な関係を有することが判明した。タウ PET の実現により、様々な認知症の病態形成におけるタウの役割が明確になり、抗タウ療法開発の妥当性が支持されるようになった。将来的には病勢評価ならびに抗タウ療法の薬効評価へ応用できると見込まれる。

テーマ 2-2

『アミロイド蓄積を検出する血液バイオマーカー』

国立長寿医療研究センター 認知症先進医療開発センター
センター長

柳 澤 勝 彦

略　歴

昭和 55 年 3 月	新潟大学医学部卒業
昭和 59 年 4 月～昭和 61 年 6 月	米国 NIH 留学
平成 7 年 11 月～平成 17 年 3 月	国立長寿医療（研究）センター 研究所部長
平成 17 年 4 月～現在	国立長寿医療研究センター 研究所副所長
平成 22 年 4 月～現在	国立長寿医療研究センター認知症先進医療開発センター センター長

アルツハイマー病は罹患者が 400 万人を超えたとされる認知症の主要な疾患であり、その治療法、予防法の確立は喫緊の課題となっています。大手製薬企業が鎬を削って開発を進めていますが、残念ながら、有効性と安全性が確認された薬剤は未だ世に出ていません。ここで、私達は、薬剤開発の失敗が相次ぐ背景を冷静に考えてみる必要があります。薬剤開発の標的設定の妥当性はひとまず置いて､多くの研究者が認める失敗の要因は介入(治験薬投与)の開始が遅過ぎたことであります。最近の研究で、アルツハイマー病病態の脳内進行の時間軸が随分と明らかになってきましたが、アミロイドの蓄積は認知症の発症に 10 年ないしは 20 年先行して生じています。これまで臨床試験から脱落した薬剤開発の多くは、アミロイド蓄積と発症との時系列に関する十分な情報のない段階で着手されたものであり、致し方ないことではありますが、アミロイドを標的とする薬剤の有効性を発症者（アルツハイマー病患者）を対象に検証することは困難（不可能）であったと理解されます。最近ではアルツハイマー病の発症早期の方を対象とする臨床試験も行われていますが、それでもまだ十分に早期であるとはいえないかも知れません。今後は、認知機能においては顕著な障害がなく、且つ、アルツハイマー病病変（アミロイド蓄積、タウ蓄積）の存在が客観的に確認された高齢者を対象に、疾患修飾薬あるいは先制治療薬の評価を行う必要があります。それでは、どのようにして、そのような方を見出していったら良いのでしょうか。PET を用いたアミロイド・イメージングと脳脊髄液の生化学的検査で脳内アミロイドの蓄積を検出ないしは予測することは可能ですが、前者は大規模な設備を必要とし、後者は被検者の負担を伴います。これらの状況にあって、この目的のために有用な血液バイオマーカーの開発に多くの研究者が挑んで来ました。しかしながら、脳脊髄液に比べ採取は容易でありながら、蛋白組成が極めて複雑な血液からは、感度、特異度の点で臨床使用に耐えるバイオマーカーの開発は困難でありました。本講演では、島津製作所 田中耕一記念質量分析研究所と国立長寿医療研究センターとが共同で進めている新規血液バイオマーカー（Kaneko et al., *Proc. Jpn. Acad., Ser. B,* 90: 353-364, 2014）についてご紹介致します。

北　國　新　聞
2015年（平成27年）3月23日　（月曜日）

早期診断、治療に光

金沢で「認プロ」シンポ

北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）のキックオフシンポジウム（本社後援）＝写真＝は22日、金沢市のホテル日航金沢で開かれ、約130人が認知症の原因の大多数を占めるアルツハイマー病の早期診断、治療に貢献しうる期待の最新技術に理解を深めた。

講演では、放射線医学総合研究所分子イメージング研究センター脳分子動態チームの樋口真人チームリーダーが、アルツハイマー病の原因として注目される「タウタンパク」がどの程度脳内にたまっているかを画像化する技術を紹介した。

国立長寿医療研究センターの柳澤勝彦認知症先進医療開発センター長は、同じくアルツハイマー病の原因とされる異常なタンパク質「アミロイドβ（ベータ）」を血液から検出するバイオマーカーの研究について語り、認知症の発症前段階を捉えることで有効な治療薬の開発につながる可能性を示した。

精神科、神経内科、かかりつけ医の代表の医師3人も認知症診療の今後について意見を述べた。

北　陸　中　日　新　聞
２０１５年３月２３日（月曜日）

認知症プロ医の養成プラン始動

金大などシンポ

金沢大（金沢市）などが取り組む「北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン」（認プロ）のキックオフシンポジウムが二十二日、市内のホテルであった。医師や行政関係者ら百三十人が認知症治療への理解を深めた＝写真。

認プロは金沢大と富山大、福井大、金沢医科大の連携事業。大学生や医師向けの各コースを通じ、地域で認知症治療や対策の先頭に立つ医師の養成を目指す。二〇一五年度、第一期生を受け入れる。

プロジェクトリーダーを務める山田正仁・金沢大大学院教授が認プロを紹介。高齢化で患者が増える中、専門医が不足しているとして「最先端の知識と技術を持ち、広範囲の職種と連携する力がある医師の養成が必要だ」と意義を唱えた。

続いて研究や治療に携わる大学教授と医師三人が登壇。認知症と間違いやすい病気に関する理解、家族や介護者も含めた対応など、専門医に必要な能力について見解を述べた。症状の予測や早期発見に関する研究も報告された。（谷口大河）

「課題解決型高度医療人材養成プログラム」における工程表

申請担当大学名	**金沢大学**
連携大学名	**富山大学、福井大学、金沢医科大学**
事業名	**北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン**

① 本事業終了後の達成目標

	本事業終了後の達成目標
達成目標	本プランでは、①認知症チーム医療のリーダーとして活躍できる認知症専門医師の養成②地域医療に貢献できる地域認知症専門医師等の養成③国際的視野を持ち認知症に関する新たな診断・治療法などの開発研究等を担う、高度な研究能力を有するスーパープロフェッショナル医の養成を目標としている。 高齢化が進む北陸地域で北陸４医科系大学及び地域の認知症・神経難病専門医療機関、研究機関、自治体、民間企業等との連携をもとに、北陸地域における認知症診療の向上、充実化を図る。

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
インプット・プロセス（投入、入力、活動、行動）	**定量的なもの**	・事業推進準備委員会、意見交換会開催（1回） ・運営組織設置（事業推進委員会10人、運営協議会24人、教務委員会31人、アドバイザリーボード4人） ・教務委員会開催（1回） ・運営協議会開催(1回) ・第1期大学院生選考・社会人コース受講者選考（【定員】本科コース/金沢大3人、富山大1人、福井大2人、医科大3人・インテンシブコース/金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人・スペシャル研修コース/金沢大4人・スーパーコース/金沢大1人）	・事業推進委員会、意見交換会開催（1回） ・教務委員会開催（1−2回） ・運営協議会開催(1回) ・第1期大学院生入学・社会人コース受講者受入（【定員】本科コース/金沢大3人、富山大1人、福井大2人、医科大3人・インテンシブコース/金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人・スペシャル研修コース/金沢大4人・スーパーコース/金沢大1人）	・事業推進委員会、意見交換会開催（1回） ・教務委員会開催（1−2回） ・運営協議会開催(1回) ・第2期大学院生入学・社会人コース受講者受入（【定員】本科コース/金沢大3人、富山大1人、福井大2人、医科大3人・インテンシブコース/金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人・スペシャル研修コース/金沢大4人・スーパーコース/金沢大1人）	・事業推進委員会、意見交換会開催（1回） ・教務委員会開催（1−2回） ・運営協議会開催(1回) ・第3期大学院生入学・社会人コース受講者受入（【定員】本科コース/金沢大3人、富山大1人、福井大2人、医科大3人・インテンシブコース/金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人・スペシャル研修コース/金沢大4人・スーパーコース/金沢大1人）	・事業推進委員会、意見交換会開催（1回） ・教務委員会開催（1−2回） ・運営協議会開催(1回) ・第4期大学院生入学・社会人コース受講者受入（【定員】本科コース/金沢大3人、富山大1人、福井大2人、医科大3人・インテンシブコース/金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人・スペシャル研修コース/金沢大4人・スーパーコース/金沢大1人）
	定性的なもの	・事業計画、アクションプラン協議 ・特任教員の採用 ・金沢大学及び各連携大学に認プロ事務局を設置 ・関連地域医療機関へテレビ会議システム導入、ネットワーク環境の整備 ・平成27年度教育コースの学生募集	・事業計画、アクションプラン等協議 ・平成28年度コースの学生募集	・事業計画、アクションプラン等協議 ・平成29年度コースの学生募集	・事業計画、アクションプラン等協議 ・平成30年度コースの学生募集	・事業継続の検討、継続体制整備 ・平成31年度コースの学生募集
アウトプット（結果、出力）	**定量的なもの**	・キックオフ市民公開講座開催(1回) ・キックオフシンポジウム開催(1回) ・アドバイザリーボード開催(1回)	・市民公開講座開催(1回) ・シンポジウム開催(1回) ・アドバイザリーボード開催（1−2回） ・デメンシアカンファレンス(1回/月) ・FD研修会の開催(4回) ・国際セミナー開催/講演(1回) ・医療スタッフセミナー(1回) ・キャリア支援セミナー（1回）	・市民公開講座開催(1回) ・シンポジウム開催(1回) ・アドバイザリーボード開催(1−2回) ・デメンシアカンファレンス(1回/月) ・FD研修会の開催(4回) ・医療スタッフセミナー(1回) ・IPEワークショップ開催(1回) ・キャリア支援セミナー（1回）	・市民公開講座開催(1回) ・シンポジウム開催(1回) ・アドバイザリーボード開催(1−2回) ・デメンシアカンファレンス(1回/月) ・FD研修会の開催(4回) ・国際シンポジウム開催（1回） ・医療スタッフセミナー(1回) ・IPEワークショップ開催(1回) ・キャリア支援セミナー（1回）	・事業成果報告会開催（1回） ・市民公開講座開催(1回) ・シンポジウム開催(1回) ・アドバイザリーボード開催(1−2回) ・デメンシアカンファレンス(1回/月) ・FD研修会の開催(4回) ・医療スタッフセミナー(1回) ・IPEワークショップ開催(1回) ・キャリア支援セミナー（1回）
	定性的なもの	・事業共同実施協定書締結 ・ホームページ公開 ・第1期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・教育コース、e-learning講義内容の決定、作成 ・各教育コース関連規定等整備 ・連携大学及び関連地域医療機関との連携及び情報ネットワーク構築 ・内部評価、外部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信	・第2期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・内部評価、外部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 ・e-learning講義作成、完成	・第3期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・内部評価、外部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 ・新規教育科目の考案、e-learning講義内容の改変	・第4期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・内部評価、外部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 ・新規教育科目の考案、e-learning講義内容の改変	・第5期志願者書類審査及び面接試験の実施 ・第１期生の学位審査・プログラム認定審査 ・内部評価、外部評価委員による評価 ・外部、地域への情報発信 ・新規教育科目の考案、e-learning講義内容の改変

		H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
アウトカム（成果、効果）	定量的なもの			・第１期インテンシブコース修了者（修了者見込、金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人） ・第１期スペシャル研修コース（修了者見込、金大4人）	・第2期インテンシブコース修了者（修了者見込、金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人） ・第１期スペシャル研修コース（修了者見込、金大4人）	第１期本科コース修了者（金沢大3人、富山大1人、福井大2人、金沢医科大3人） ・第3期インテンシブコース修了者（修了者見込金沢大3人、富山大2人、福井大5人、金沢医科大3人） ・第3期スペシャル研修コース（修了者見込、金沢大4人）
	定性的なもの	・教育コースの構築 ・連携大学及び関連地域医療機関の連携強化 ・本プランの周知 ・内部評価、外部評価を基にした検討、改善	・内部評価、外部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善 ・次年度事業の実施体制検討調整 ・本プランの周知 ・入学希望者の確保 ・チーム医療のリーダーの養成 ・地域医療に貢献できる専門医師の養成 ・開発を担う高度な研究能力を有する専門医の養成 ・臨床研究の推進、先進的医療を担う人材育成とそのキャリア形成	・内部評価、外部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善 ・次年度事業の実施体制検討調整 ・本プランの周知 ・入学希望者の増加 ・チーム医療のリーダーの養成 ・地域医療に貢献できる専門医師の養成 ・開発を担う高度な研究能力を有する専門医の養成 ・臨床研究の推進、先進的医療を担う人材育成とそのキャリア形成	・内部評価、外部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善 ・次年度事業の実施体制検討調整 ・本プランの周知 ・入学希望者の増加 ・チーム医療のリーダーの養成 ・地域医療に貢献できる専門医師の養成 ・開発を担う高度な研究能力を有する専門医の養成 ・臨床研究の推進、先進的医療を担う人材育成とそのキャリア形成	・内部評価、外部評価委員会によるPDCAサイクル形成、改善 ・次年度事業の実施体制検討調整 ・本プランの継続基盤確保 ・本プランの周知 ・入学希望者の確保 ・チーム医療のリーダーの輩出 ・地域医療に貢献できる専門医師の輩出 ・開発を担う高度な研究能力を有する専門医の輩出 ・臨床研究の推進、先進的医療を担う人材育成とそのキャリア形成

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	事業期間中は、PDCAサイクルによる工程管理を行った上で、全国の模範となるよう体系的な教育プログラムを展開すること。その際、履修する学生や医療従事者等のキャリアパス形成に繋がる取組や体制を構築すること。	PDCAサイクルを確実に推進するため、内部評価組織として運営協議会、外部評価組織としてアドバイザリーボードを設置、アウトプット、アウトカムを年度ごとに示し到達度の評価を受けて事業推進委員会が工程管理を行う。学生受入後は、教務委員会、アドバイザリーボードが中心となりプログラムの達成状況把握や評価・点検を実施し、次年度以降の事業に反映させる。教育コースは地域における認知症フィールド研修から、認知症の症候学、最先端の検査法を含む診断学、分子病態・神経病理学、治療・予防学の研鑽、さらに新規診断法、予防・治療薬の開発研究法の習得に至るまで幅広い領域を包含し大学や地域医療機関に所属する各専門領域のエキスパートスタッフが認知症の臨床、基礎、研究について指導研修を展開する。また、本プランの教育コース履修者を含めた認知症関連医師のキャリアパス形成を支援するためセミナーを開催する。
②	事業の実施に当たっては、学長・学部長等のリーダーシップのもと、責任体制を明確にした上で、全学的な実施体制で行うこと。また、地域医療の充実やチーム医療の推進の観点からも、学外の有識者にも積極的に参画いただき、事業の構想を実現できる体制を構築すること。	金沢大学学長を事業推進代表者，医薬保健学域長を事業推進責任者に置き、各連携大学、関連地域医療機関からの選出者等で構成する事業推進委員会、運営協議会、教務委員会を設置。また、認知症における有識者（認知症専門家の立場，かかりつけ医の立場，国民一般の立場）で構成するアドバイザリーボードを設けた。連携大学、関連地域医療機関、研究機関、自治体、民間企業等と密接に連携し、本プランを推進、実施していく。
③	事業期間終了後も各大学において事業を継続することを念頭に、具体的な事業継続の方針・考え方について検討すること。また、多くの大学に自らの教育改革を進める議論に活用してもらうため、選定大学が開発・実践する教育プログラムから得られる成果等を、可能な限り可視化した上で、地域や社会に対して分かりやすく情報発信すること。	4大学連携により開講する授業科目を北陸地域の認知症教育のコンソーシアムの一環として位置づけ、予算、組織、人員の継続維持を計りながらプラン終了後も教育モデルとなるよう改善・発展させていく。地域社会への情報発信としては、市民公開講座や、医療従事者を対象にしたシンポジウムを開催し、認知症への理解と本プランの周知を図る。ホームページでは、本プランの活動や成果を継続的に発信していく。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント（改善を要する点、留意事項）	対応方針
認知症に関する臨床研究の推進や、社会医学的な面でのプログラムはやや具体性に乏しいのではないか。	認知症の臨床研修について直接指導する。
大学院コースにおける養成対象について、医師、看護師、その他の区別が不明な箇所がある。	本プランの大学院生コースにおける養成対象は医師のみとし、現段階では看護師、介護士等を対象としていないが、将来的には看護師、介護士も含めたプログラムに発展させていく。
キャリア教育・キャリア形成支援の欄が空欄であるが、事業を展開する上で履修者のキャリアパス支援は非常に重要であることから、検討いただきたい。	キャリア支援セミナーを開催し，本プランの教育コース履修者を含めた認知症関連医師のキャリアパス支援を行う。
認知症専門医のみでなく、認知症を理解するコメディカルの育成も必要と思われることから可能な範囲で検討いただきたい。	本プランの教育コースにおける養成対象は医師のみとし、現段階ではコメディカルを対象としていないが、コメディカルとの連携・育成も視野に入れたシンポジウムやセミナーも企画していく。さらに今後はコメディカル（看護師、介護士、保健師等）の育成も含めたプログラムに発展させていく。

⑤ 本事業ホームページURL（※　提出時点でホームページが作成できていない場合は、作成見込年月を記入するとともに、完成次第URLのご連絡をお願いします。）

当該事業ホームページURL	http://ninpro.jp

文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

平成２６年度　事業実施成果報告書
平成２７（２０１５）年6月

編集・発行
北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）
北陸認プロ運営事務局
〒920-8640　石川県金沢市宝町１３番１号
金沢大学医薬保健学域　医学類Ｂ棟
TEL:076265-2149　FAX:076-234-4208
E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp
http://ninpro.jp/

NINPRO